

平成30年度
第7回市政モニターアンケート

暴力団排除について

北九州市広報室広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	
(1) 「福岡県暴力団排除条例」の認知度	2
(2) 「福岡県暴力団排除条例」の内容の認知度	3
(3) 「北九州市暴力団排除条例」の認知度	4
(4) 「北九州市暴力団排除条例」の内容の認知度	5
(5) 暴力団排除条例に関する市民講演等への参加の意向	6
(6) 暴力団排除条例に関する市民講演等へ参加したくない理由	7
(7) 暴力団排除への関心の程度	8
(8) 暴力団に関する情報の入手方法	9
(9) 暴力団をどのような存在と考えるか	10
(10) 報道の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた経験の有無	11
(11) 報道の中で脅威と感じた内容	12
(12) 実生活の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた(被害を受けた)経験の有無	13
(13) 実生活の中で脅威と感じた(被害を受けた)内容	14
(14) 暴力団被害に関する相談窓口(相談ダイヤル)の認知度	15
(15) 暴力団を利用してのもめごとの処理についての考え	16
(16) 暴力団対策法の認知度	17
(17) 暴力団員から被害を受けた場合の対応	18
(18) 不当な要求を排除するために必要な環境	19
(19) 暴力団排除に向けて今後必要な行政の施策	20
(20) 市民の暴力団排除意識を高揚させるためのPR方法	21
(21) 行政が主催する暴力追放に関する活動への参加の意向	22
(22) 行政が主催する暴力追放に関する活動へ参加したくない理由	23
(23) 青少年の非行問題と暴力団の関係の認知度	24
(24) 行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに対する考え	25
(25) 行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに賛成しない理由	26
(26) 暴力追放推進施策に関する意見	27
IV 全体考察	31

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター 150人
回答者数	133人(回収率 88.7%)
調査実施日	平成30年11月13日～平成30年11月28日
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査
調査実施課	広報室広聴課 TEL582-2527
調査依頼課	市民文化スポーツ局安全・安心相談センター TEL582-2427

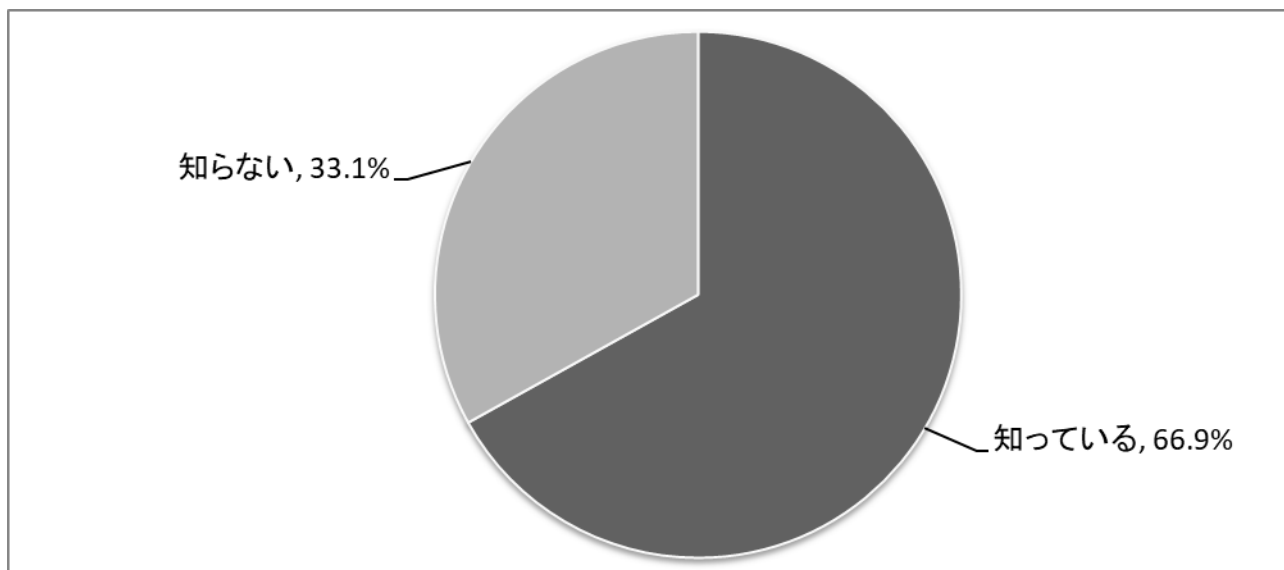
II 市政モニターの構成

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	52 (34.7%)	98 (65.3%)	区 別			
10歳代	5 (3.3%)	1 (0.7%)	4 (2.7%)	門司区	16 (10.7%)	7 (4.7%)	9 (6.0%)
20歳代	13 (8.7%)	3 (2.0%)	10 (6.7%)	小倉北区	29 (19.3%)	10 (6.7%)	19 (12.7%)
30歳代	36 (24.0%)	9 (6.0%)	27 (18.0%)	小倉南区	32 (21.3%)	12 (8.0%)	20 (13.3%)
40歳代	36 (24.0%)	12 (8.0%)	24 (16.0%)	若松区	13 (8.7%)	4 (2.7%)	9 (6.0%)
50歳代	22 (14.7%)	6 (4.0%)	16 (10.7%)	八幡東区	10 (6.7%)	5 (3.3%)	5 (3.3%)
60歳代	28 (18.7%)	17 (11.3%)	11 (7.3%)	八幡西区	39 (26.0%)	12 (8.0%)	27 (18.0%)
70歳以上	10 (6.7%)	4 (2.7%)	6 (4.0%)	戸畑区	11 (7.3%)	2 (1.3%)	9 (6.0%)

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

問1 あなたは平成22年4月に施行された、事業者から暴力団への悪質な利益供与等に対し、全国初の罰則を定めた「福岡県暴力団排除条例」をご存じですか？



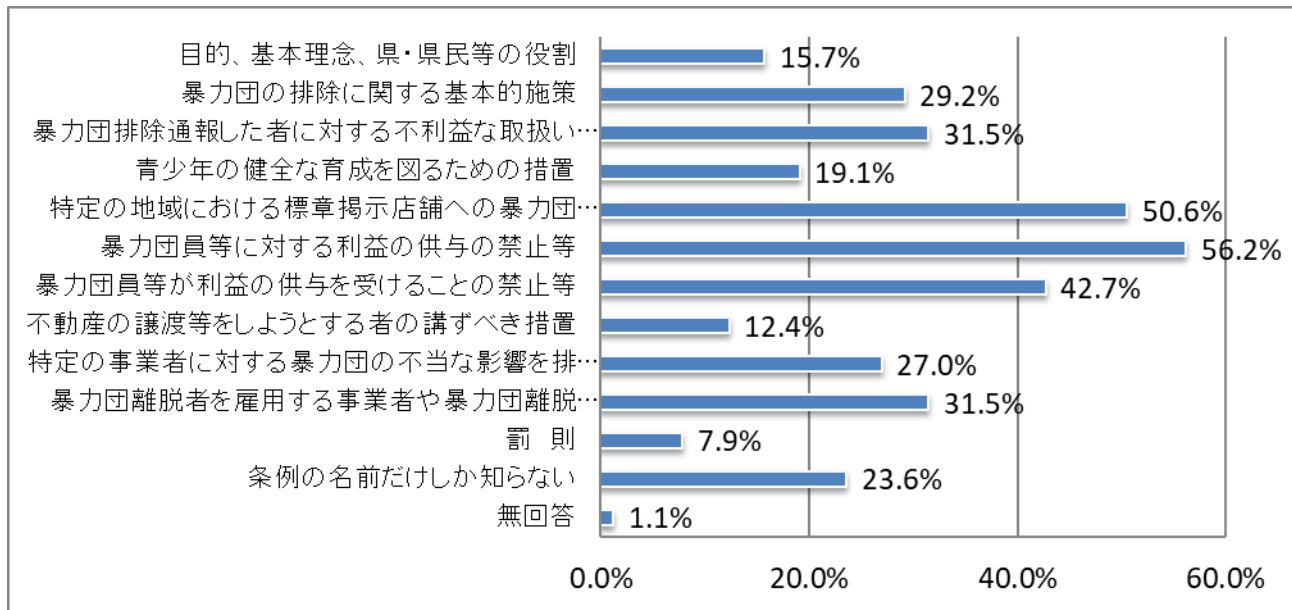
		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		133人	66.9%	33.1%	0.0%
性別	男性	41人	73.2%	26.8%	0.0%
	女性	92人	64.1%	35.9%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	25.0%	75.0%	0.0%
	20歳代	11人	63.6%	36.4%	0.0%
	30歳代	31人	61.3%	38.7%	0.0%
	40歳代	29人	72.4%	27.6%	0.0%
	50歳代	20人	55.0%	45.0%	0.0%
	60歳代	28人	89.3%	10.7%	0.0%
	70歳以上	10人	50.0%	50.0%	0.0%
区別	門司区	15人	60.0%	40.0%	0.0%
	小倉北区	25人	76.0%	24.0%	0.0%
	小倉南区	31人	64.5%	35.5%	0.0%
	若松区	12人	25.0%	75.0%	0.0%
	八幡東区	8人	75.0%	25.0%	0.0%
	八幡西区	32人	78.1%	21.9%	0.0%
	戸畑区	10人	70.0%	30.0%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の全体の認知度は66.9%であり、前回調査の79.1%から減少した。年齢層別に見ると、60歳台が89.3%と最も高く、10歳代の認知度が25.0%と最も低くなっている。

＜問1で「1 知っている」と答えた方のみご回答ください。＞

問2 あなたは福岡県暴力団排除条例の内容について、どの程度ご存知ですか？

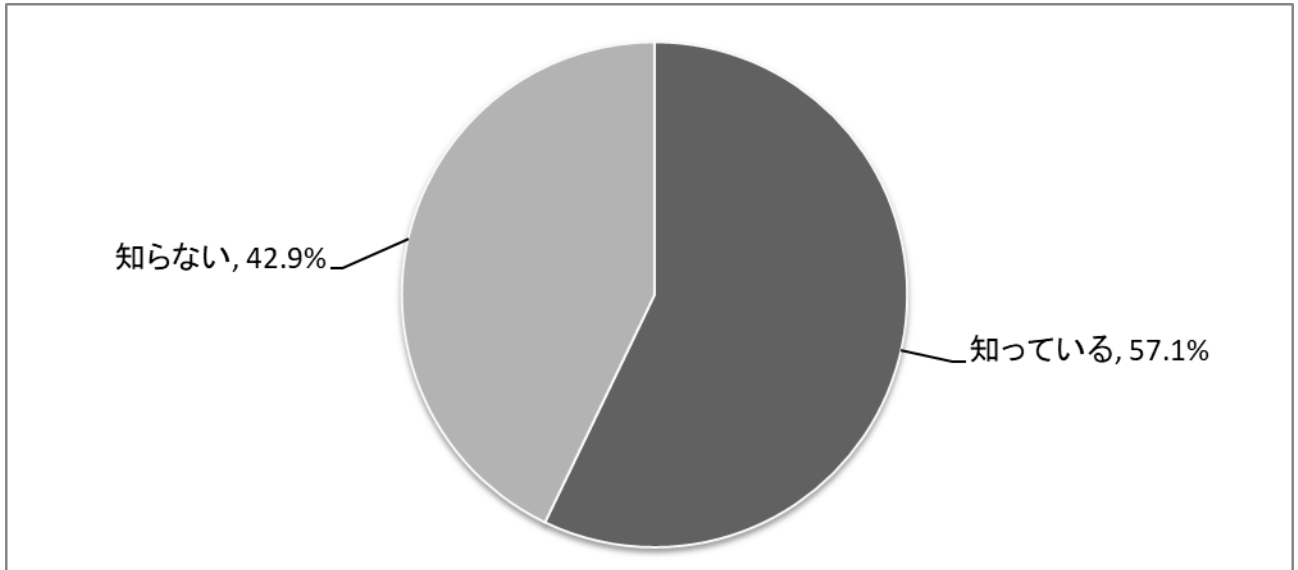
(知っているもの全て選択してください)



	回答者数	目的、基本理念、県・県民等の役割	暴力団の排除に関する基本的施策	暴力団排除通報した者に対する不利益な取扱いの禁止	青少年の健全な育成を図るための措置	特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止	暴力団員等に対する利益の供与の禁止等	暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等	不動産の譲渡等をしようとする者の講ずべき措置	特定の事業者に対する暴力団の不当な影響を排除するための措置	暴力団離脱者を雇用する事業者や暴力団離脱者に対する雇用や就労の支援等	罰則	条例の名前だけしか知らない	無回答	
全体	89人	15.7%	29.2%	31.5%	19.1%	50.6%	56.2%	42.7%	12.4%	27.0%	31.5%	7.9%	23.6%	1.1%	
性別	男性	30人	30.0%	40.0%	46.7%	23.3%	60.0%	66.7%	50.0%	16.7%	46.7%	46.7%	13.3%	10.0%	0.0%
	女性	59人	8.5%	23.7%	23.7%	16.9%	45.8%	50.8%	39.0%	10.2%	16.9%	23.7%	5.1%	30.5%	1.7%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	7人	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%	42.9%	57.1%	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	0.0%
	30歳代	19人	5.3%	26.3%	21.1%	21.1%	26.3%	36.8%	26.3%	10.5%	5.3%	10.5%	0.0%	42.1%	0.0%
	40歳代	21人	28.6%	23.8%	42.9%	28.6%	52.4%	57.1%	47.6%	19.0%	38.1%	42.9%	23.8%	33.3%	0.0%
	50歳代	11人	9.1%	27.3%	18.2%	27.3%	54.5%	54.5%	63.6%	0.0%	9.1%	45.5%	9.1%	0.0%	0.0%
	60歳代	25人	16.0%	36.0%	32.0%	12.0%	60.0%	60.0%	40.0%	8.0%	40.0%	32.0%	0.0%	16.0%	4.0%
	70歳以上	5人	40.0%	60.0%	60.0%	0.0%	80.0%	100.0%	60.0%	20.0%	80.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	9人	44.4%	55.6%	33.3%	33.3%	77.8%	77.8%	55.6%	33.3%	44.4%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19人	10.5%	26.3%	21.1%	10.5%	47.4%	63.2%	36.8%	5.3%	31.6%	15.8%	5.3%	31.6%	0.0%
	小倉南区	20人	20.0%	30.0%	45.0%	20.0%	45.0%	60.0%	45.0%	10.0%	30.0%	45.0%	5.0%	20.0%	0.0%
	若松区	3人	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6人	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	50.0%	16.7%
	八幡西区	25人	12.0%	28.0%	40.0%	20.0%	60.0%	48.0%	44.0%	12.0%	24.0%	32.0%	8.0%	16.0%	0.0%
	戸畑区	7人	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	28.6%	42.9%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「暴力団員等に対する利益の供与の禁止等」が56.2%、「特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止」が50.6%、「暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等」が42.7%で前回と同様の傾向になっている。

問3 あなたは平成22年7月に市が施行した、「北九州市暴力団排除条例」をご存じですか？



		回答者数	知っている	知らない
全体		133人	57.1%	42.9%
性別	男性	41人	61.0%	39.0%
	女性	92人	55.4%	44.6%
年齢別	10歳代	4人	25.0%	75.0%
	20歳代	11人	54.5%	45.5%
	30歳代	31人	45.2%	54.8%
	40歳代	29人	58.6%	41.4%
	50歳代	20人	60.0%	40.0%
	60歳代	28人	78.6%	21.4%
	70歳以上	10人	40.0%	60.0%
区別	門司区	15人	53.3%	46.7%
	小倉北区	25人	68.0%	32.0%
	小倉南区	31人	48.4%	51.6%
	若松区	12人	33.3%	66.7%
	八幡東区	8人	50.0%	50.0%
	八幡西区	32人	68.8%	31.3%
	戸畑区	10人	60.0%	40.0%

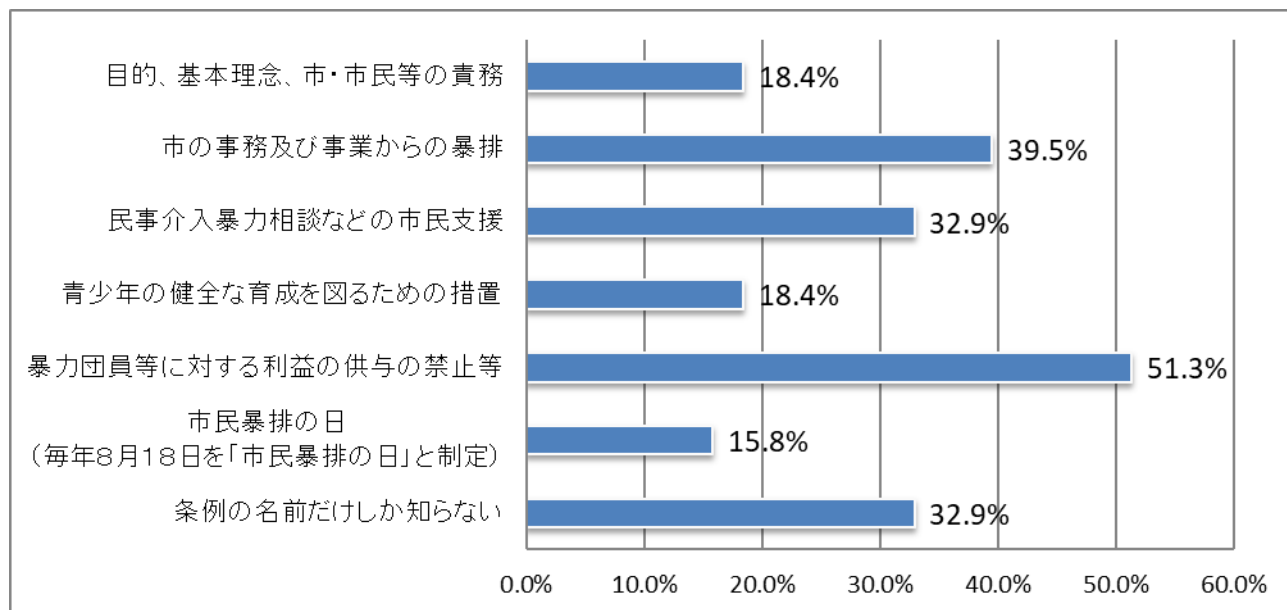
北九州市暴力団排除条例の全体の認知度は、57.1%であり、前回調査の64.4%から減少している。

年齢層別に見ると、60歳代の認知度が85.7%と最も高い。10歳代の認知度が25.0%と最も低くなっている。

<問3で「1 知っている」と答えた方のみご回答下さい。>

問4 あなたは北九州市暴力団排除条例の内容について、どの程度ご存知ですか？

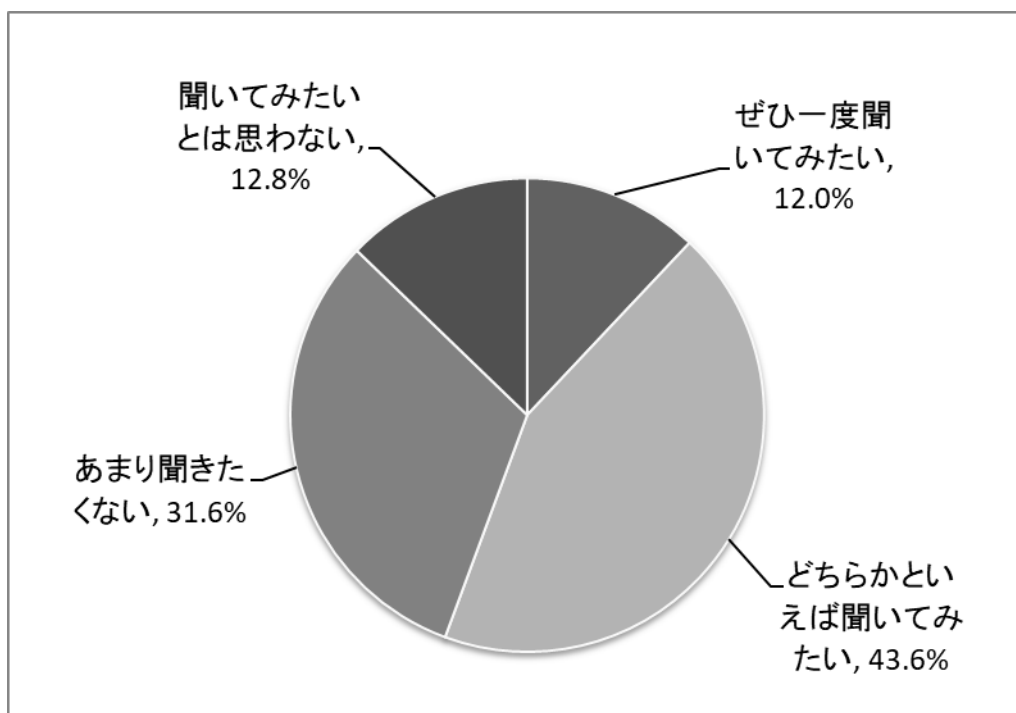
(知っているもの全て選択してください)



	回答者数	目的、基本理念、市・市民等の責務	市の事務及び事業からの暴排	民事介入暴力相談などの市民支援	青少年の健全な育成を図るための措置	暴力団員等に対する利益の供与の禁止等	市民暴排の日 (毎年8月18日を「市民暴排の日」と制定)	条例の名前だけしか知らない	無回答	
全体	76人	18.4%	39.5%	32.9%	18.4%	51.3%	15.8%	32.9%	0.0%	
性別	男性	25人	28.0%	72.0%	40.0%	20.0%	60.0%	20.0%	16.0%	0.0%
	女性	51人	13.7%	23.5%	29.4%	17.6%	47.1%	13.7%	41.2%	0.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	20歳代	6人	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	66.7%	0.0%
	30歳代	14人	7.1%	14.3%	21.4%	14.3%	50.0%	7.1%	50.0%	0.0%
	40歳代	17人	35.3%	47.1%	35.3%	23.5%	52.9%	23.5%	35.3%	0.0%
	50歳代	12人	8.3%	33.3%	25.0%	33.3%	66.7%	0.0%	16.7%	0.0%
	60歳代	22人	22.7%	59.1%	40.9%	18.2%	54.5%	22.7%	18.2%	0.0%
	70歳以上	4人	25.0%	75.0%	75.0%	0.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%
区別	門司区	8人	37.5%	62.5%	37.5%	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%
	小倉北区	17人	5.9%	23.5%	11.8%	5.9%	41.2%	0.0%	52.9%	0.0%
	小倉南区	15人	26.7%	46.7%	26.7%	20.0%	73.3%	20.0%	20.0%	0.0%
	若松区	4人	0.0%	25.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	4人	50.0%	50.0%	75.0%	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%
	八幡西区	22人	13.6%	45.5%	40.9%	22.7%	54.5%	18.2%	27.3%	0.0%
	戸畑区	6人	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	16.7%	66.7%	0.0%

北九州市暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「暴力団員等に対する利益の供与の禁止等」が51.3%、「市の事務及び事業からの暴排」が39.5%、「民事介入暴力相談などの市民支援」が32.9%で、前回と同様の傾向になっている。

問5 あなたは福岡県や北九州市の暴力団排除条例について市民講演などを開催するとした場合、参加して内容を聞いてみたいと思いますか？



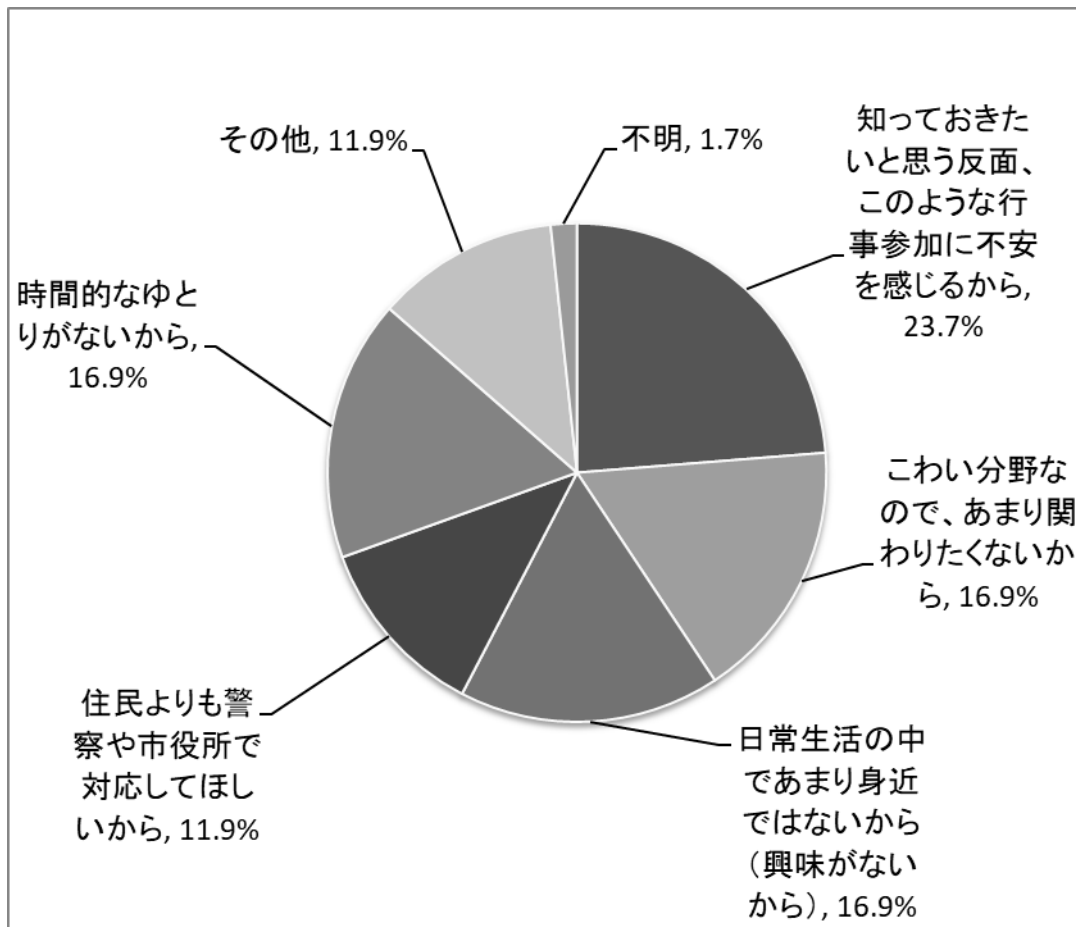
		回答者数	ぜひ一度聞いてみたい	どちらかといえば聞いてみたい	あまり聞きたくない	聞いてみたいとは思わない	無回答
全体		133人	12.0%	43.6%	31.6%	12.8%	0.0%
性別	男性	41人	14.6%	53.7%	22.0%	9.8%	0.0%
	女性	92人	10.9%	39.1%	35.9%	14.1%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	0.0%	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%
	30歳代	31人	3.2%	45.2%	29.0%	22.6%	0.0%
	40歳代	29人	27.6%	27.6%	34.5%	10.3%	0.0%
	50歳代	20人	5.0%	40.0%	45.0%	10.0%	0.0%
	60歳代	28人	14.3%	50.0%	25.0%	10.7%	0.0%
	70歳以上	10人	20.0%	60.0%	10.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	15人	13.3%	40.0%	26.7%	20.0%	0.0%
	小倉北区	25人	16.0%	44.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	小倉南区	31人	16.1%	48.4%	32.3%	3.2%	0.0%
	若松区	12人	0.0%	33.3%	41.7%	25.0%	0.0%
	八幡東区	8人	12.5%	62.5%	25.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	12.5%	40.6%	34.4%	12.5%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%

暴力団排除条例についての講演等に対するニーズは、

- 聞いてみたい層 55.6%
- 聞いてみたいと思わない層 44.4%

前回調査の【聞いてみたい層】53.8%、【聞いてみたいと思わない層】46.2%とほぼ同様の傾向となった。

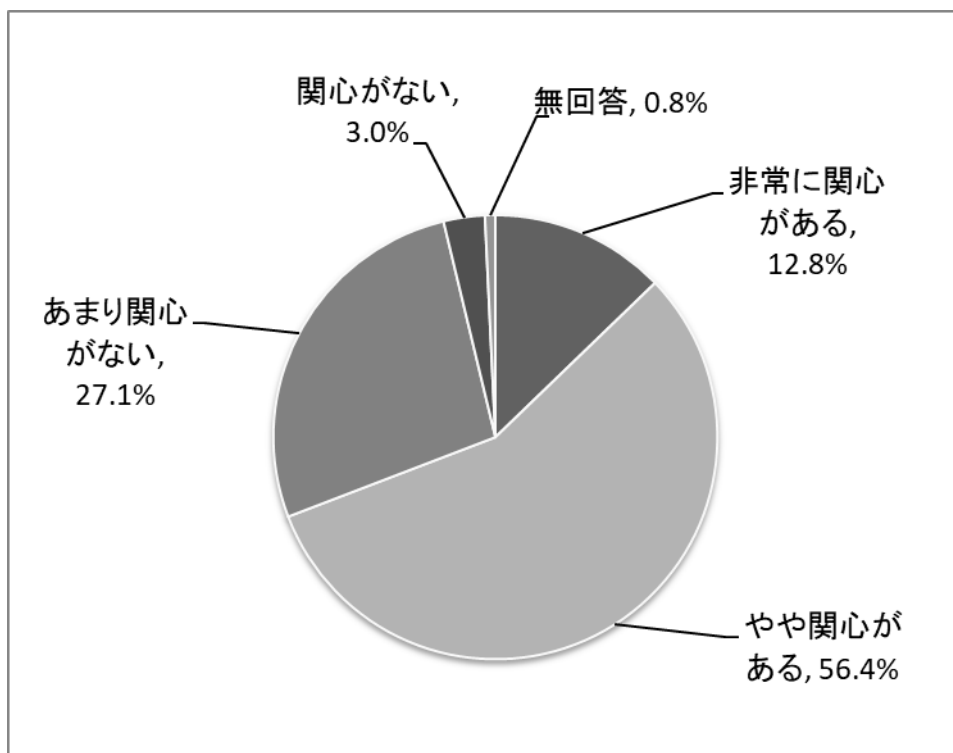
<問5で「3 あまり聞きたくない」「4 聞いてみたいとは思わない」と答えた方のみご回答ください。>
 問6 その理由は何ですか？(主なものを1つ選択してください)



		回答者数	知っておきたいと思う反面、このような行事参加に不安を感じるから	こわい分野なので、あまり関わりたくないから	日常生活の中であまり身近ではないから(興味がないから)	住民よりも警察や市役所で対応してほしいから	時間的なゆとりがないから	その他	不明
全体		59人	23.7%	16.9%	16.9%	11.9%	16.9%	11.9%	1.7%
性別	男性	13人	15.4%	23.1%	7.7%	15.4%	23.1%	15.4%	0.0%
	女性	46人	26.1%	15.2%	19.6%	10.9%	15.2%	10.9%	2.2%
年齢別	10歳代	2人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	20歳代	5人	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	16人	31.3%	12.5%	25.0%	6.3%	18.8%	0.0%	6.3%
	40歳代	13人	23.1%	15.4%	7.7%	23.1%	15.4%	15.4%	0.0%
	50歳代	11人	9.1%	27.3%	18.2%	9.1%	27.3%	9.1%	0.0%
	60歳代	10人	30.0%	10.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	70歳以上	2人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
区別	門司区	7人	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%
	小倉北区	10人	30.0%	10.0%	30.0%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%
	小倉南区	11人	18.2%	18.2%	18.2%	9.1%	27.3%	9.1%	0.0%
	若松区	8人	37.5%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%
	八幡東区	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	15人	6.7%	26.7%	6.7%	26.7%	26.7%	6.7%	0.0%
	戸畑区	6人	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%

暴力団排除条例についての講演等について、【聞いてみたいと思わない層】の理由としては、このような行事参加に不安を感じたり、こわい分野なので関わりたくないとする【不安層】が、40.6%を占め、次いで「身近ではなく興味がない」「時間的なゆとりがない」が各16.9%、「警察や市役所で対応してほしい」「その他」が各11.9%の順となっている。

問7 あなたは暴力団排除について日頃、どの程度関心をお持ちですか？



		回答者数	非常に関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
全体		133人	12.8%	56.4%	27.1%	3.0%	0.8%
性別	男性	41人	19.5%	53.7%	22.0%	2.4%	2.4%
	女性	92人	9.8%	57.6%	29.3%	3.3%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	0.0%	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	6.5%	58.1%	25.8%	9.7%	0.0%
	40歳代	29人	13.8%	51.7%	34.5%	0.0%	0.0%
	50歳代	20人	10.0%	55.0%	35.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	28人	14.3%	71.4%	10.7%	3.6%	0.0%
	70歳以上	10人	40.0%	30.0%	20.0%	0.0%	10.0%
区別	門司区	15人	0.0%	53.3%	33.3%	13.3%	0.0%
	小倉北区	25人	12.0%	56.0%	32.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	31人	12.9%	61.3%	22.6%	0.0%	3.2%
	若松区	12人	8.3%	58.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	8人	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	21.9%	56.3%	15.6%	6.3%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

「暴力団排除」に関する関心度については、

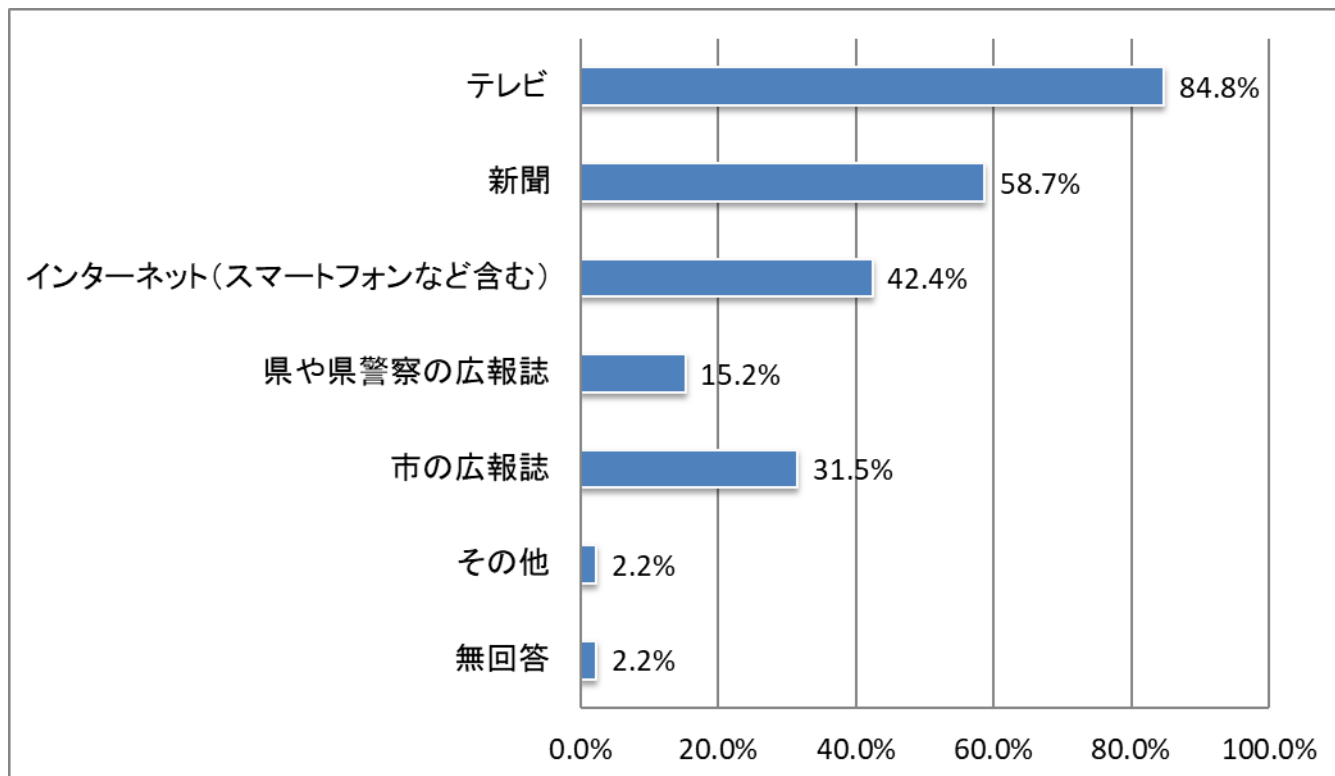
- 関心がある層 69.2%
- 関心がない層 30.1%

となり、特に60歳台が85.7%と非常に関心が高い。

<問7で「1 非常に興味がある」「2 やや興味がある」と答えた方のみご回答ください。>

問8 あなたは暴力団に関する情報を普段どういったメディアから入手していますか？

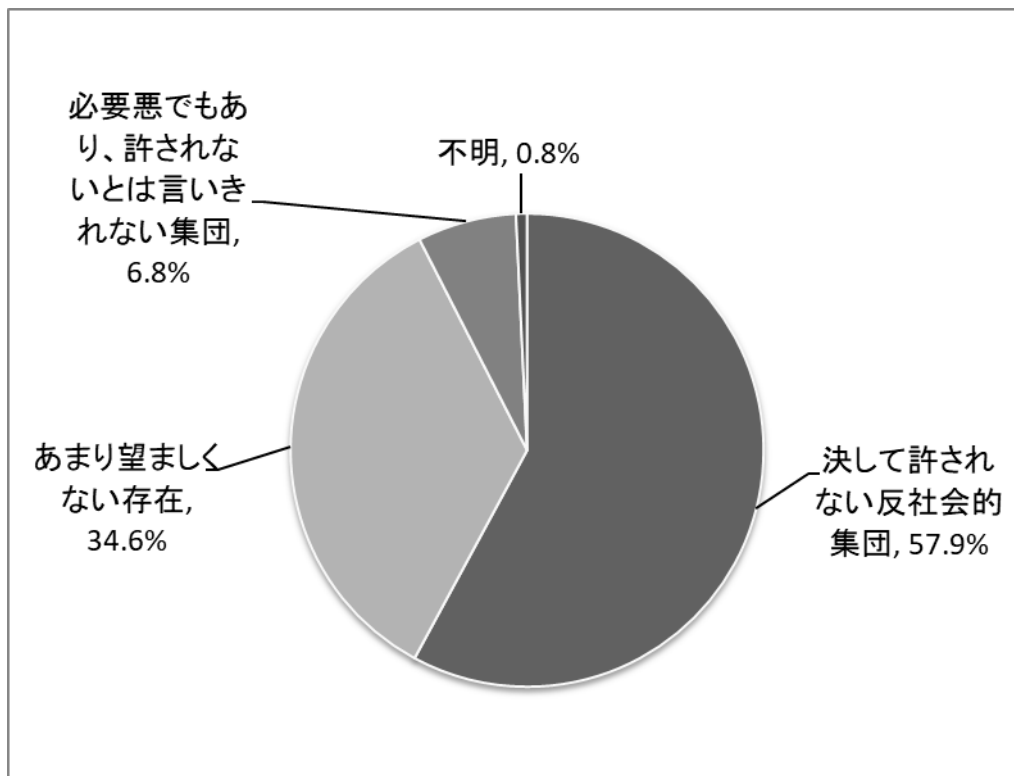
(あてはまるものを全て選択してください)



		回答者数	テレビ	新聞	インターネット(スマートフォンなど含む)	県や県警察の広報誌	市の広報誌	その他	無回答
全体		92人	84.8%	58.7%	42.4%	15.2%	31.5%	2.2%	2.2%
性別	男性	30人	83.3%	76.7%	40.0%	23.3%	36.7%	6.7%	3.3%
	女性	62人	85.5%	50.0%	43.5%	11.3%	29.0%	0.0%	1.6%
年齢別	10歳代	3人	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	6人	83.3%	33.3%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	20人	100.0%	55.0%	50.0%	10.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	19人	73.7%	31.6%	52.6%	10.5%	36.8%	5.3%	5.3%
	50歳代	13人	76.9%	69.2%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%
	60歳代	24人	95.8%	91.7%	25.0%	25.0%	50.0%	4.2%	0.0%
	70歳以上	7人	85.7%	57.1%	57.1%	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%
区別	門司区	8人	100.0%	75.0%	12.5%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%
	小倉北区	17人	88.2%	70.6%	35.3%	17.6%	35.3%	0.0%	0.0%
	小倉南区	23人	78.3%	52.2%	47.8%	17.4%	26.1%	4.3%	0.0%
	若松区	8人	75.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	12.5%
	八幡東区	6人	100.0%	83.3%	33.3%	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%
	八幡西区	25人	80.0%	52.0%	52.0%	16.0%	24.0%	0.0%	4.0%
	戸畑区	5人	100.0%	80.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%

暴力団排除に「興味がある層」の普段の情報の入手元は、「テレビ」84.8%、と前回と同様であったが、「新聞」が58.7%（前回75.3%）「市の広報誌」が31.5%（前回40.4%）に減少する一方、「インターネット」は42.4%（前回27.0%）に増加している。

問9 あなたは現在、暴力団をどのような存在とお考えですか？



		回答者数	決して許されない反社会的集団	あまり望ましくない存在	必要悪でもあり、許されないと言いきれない集団	存在そのものは悪くない	不明
全体		133人	57.9%	34.6%	6.8%	0.0%	0.8%
性別	男性	41人	53.7%	34.1%	9.8%	0.0%	2.4%
	女性	92人	59.8%	34.8%	5.4%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	36.4%	45.5%	18.2%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	51.6%	41.9%	6.5%	0.0%	0.0%
	40歳代	29人	55.2%	37.9%	6.9%	0.0%	0.0%
	50歳代	20人	60.0%	35.0%	5.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	28人	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%
	70歳以上	10人	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%
区別	門司区	15人	33.3%	60.0%	6.7%	0.0%	0.0%
	小倉北区	25人	64.0%	28.0%	4.0%	0.0%	4.0%
	小倉南区	31人	74.2%	19.4%	6.5%	0.0%	0.0%
	若松区	12人	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	8人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	53.1%	37.5%	9.4%	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%

暴力団に対する認識は、

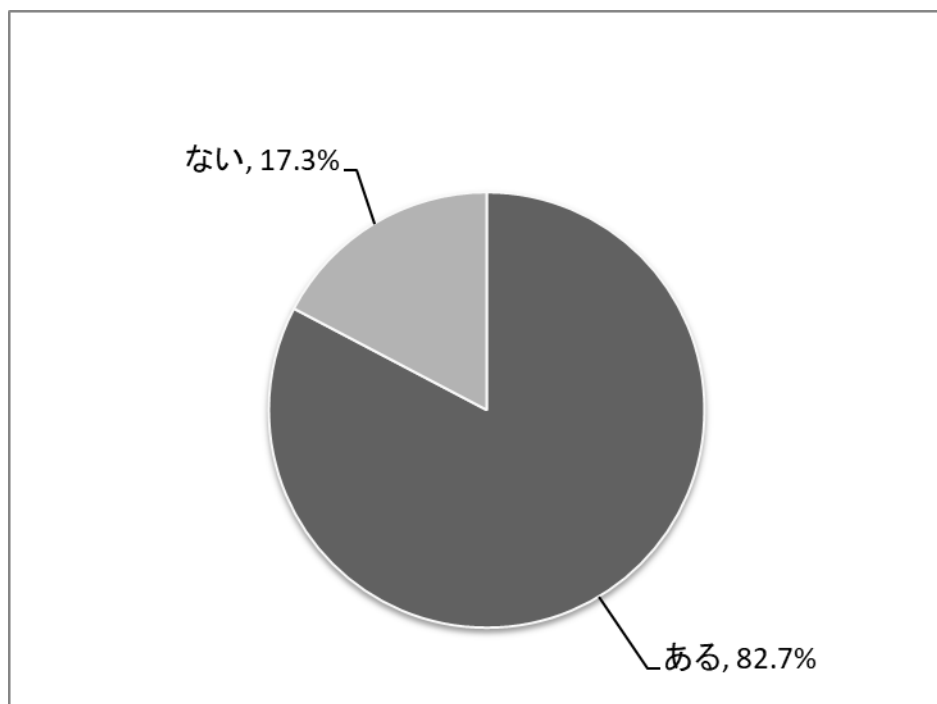
○ 決して許されない反社会的集団 57.9%

○ あまり望ましくない存在 34.6%

と92.5%の方が「否定的」である。

なお「必要悪でもあり許されないと言いきれない」は6.8%（前回2.3%）で、「存在そのものは悪くない」は0%（前回1.5%）であった。

問10 あなたは「これまでのテレビ・新聞などの報道」の中で、暴力団(員)に対する脅威を感じたことがありますか？

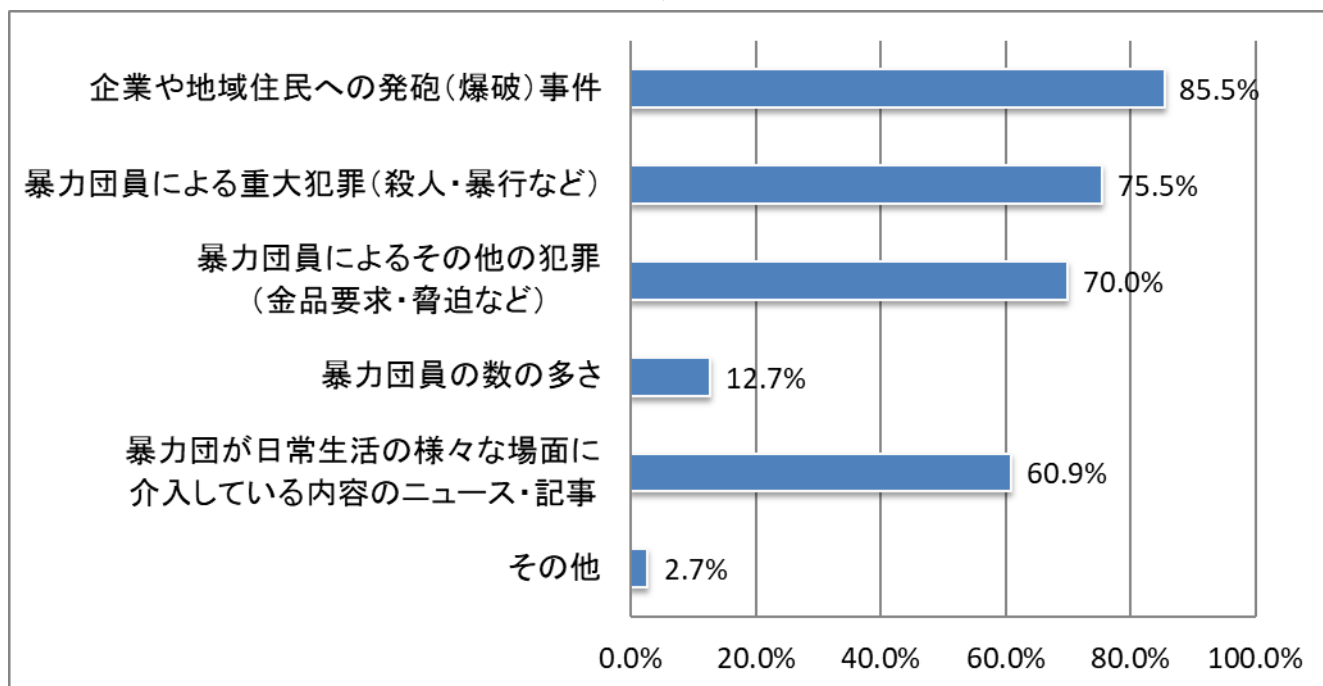


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		133人	82.7%	17.3%	0.0%
性別	男性	41人	68.3%	31.7%	0.0%
	女性	92人	89.1%	10.9%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	75.0%	25.0%	0.0%
	20歳代	11人	72.7%	27.3%	0.0%
	30歳代	31人	80.6%	19.4%	0.0%
	40歳代	29人	93.1%	6.9%	0.0%
	50歳代	20人	80.0%	20.0%	0.0%
	60歳代	28人	82.1%	17.9%	0.0%
	70歳以上	10人	80.0%	20.0%	0.0%
区別	門司区	15人	60.0%	40.0%	0.0%
	小倉北区	25人	88.0%	12.0%	0.0%
	小倉南区	31人	87.1%	12.9%	0.0%
	若松区	12人	83.3%	16.7%	0.0%
	八幡東区	8人	87.5%	12.5%	0.0%
	八幡西区	32人	87.5%	12.5%	0.0%
	戸畑区	10人	70.0%	30.0%	0.0%

「報道」を通じた暴力団(員)に対する脅威は、82.7%の回答者が感じている。
また、性別で見ると、男性68.3%に対し、女性89.1%と男性よりも女性が脅威を感じている結果となった。

<問10で「1 ある」と答えた方のみご回答ください。>

問11 あなたが脅威と感じたことは何ですか？(複数回答可)

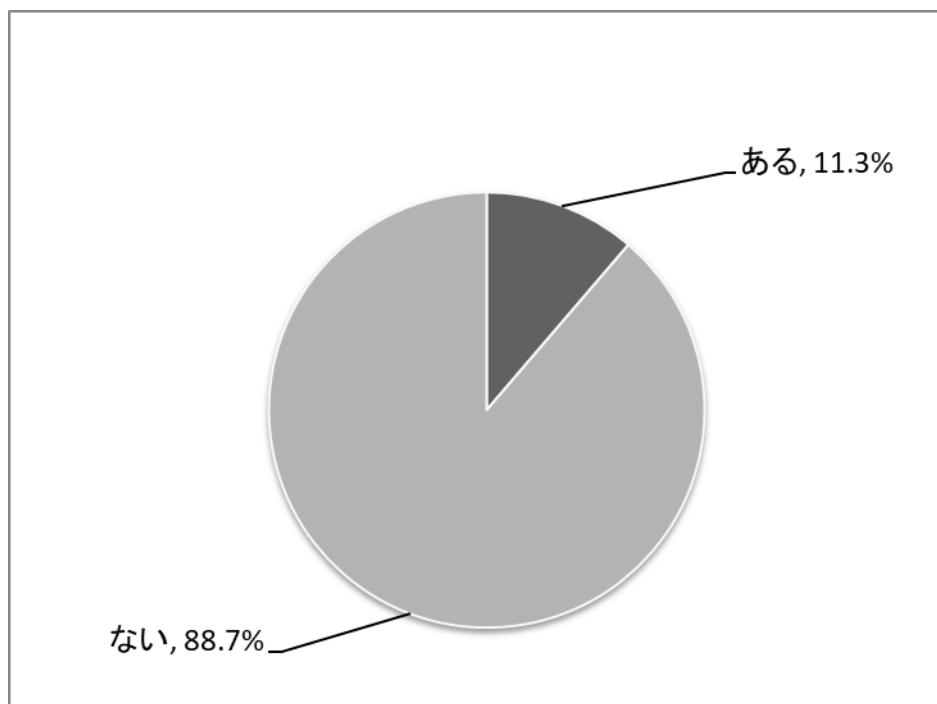


		回答者数	企業や地域住民への発砲(爆破)事件	暴力団員による重大犯罪(殺人・暴行など)	暴力団員によるその他の犯罪(金品要求・脅迫など)	暴力団員の数の多さ	暴力団が日常生活の様々な場面に介入している内容のニュース・記事	その他	無回答
全体		110人	85.5%	75.5%	70.0%	12.7%	60.9%	2.7%	0.0%
性別	男性	28人	89.3%	71.4%	64.3%	14.3%	67.9%	7.1%	0.0%
	女性	82人	84.1%	76.8%	72.0%	12.2%	58.5%	1.2%	0.0%
年齢別	10歳代	3人	100.0%	66.7%	66.7%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	20歳代	8人	87.5%	75.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	25人	92.0%	72.0%	76.0%	24.0%	48.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	27人	81.5%	81.5%	81.5%	7.4%	70.4%	3.7%	0.0%
	50歳代	16人	75.0%	62.5%	62.5%	0.0%	68.8%	0.0%	0.0%
	60歳代	23人	91.3%	78.3%	69.6%	13.0%	73.9%	4.3%	0.0%
	70歳以上	8人	75.0%	87.5%	62.5%	25.0%	75.0%	12.5%	0.0%
区別	門司区	9人	77.8%	88.9%	44.4%	22.2%	77.8%	11.1%	0.0%
	小倉北区	22人	81.8%	63.6%	63.6%	18.2%	63.6%	0.0%	0.0%
	小倉南区	27人	100.0%	77.8%	77.8%	7.4%	63.0%	3.7%	0.0%
	若松区	10人	80.0%	70.0%	70.0%	0.0%	60.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	7人	85.7%	85.7%	85.7%	42.9%	71.4%	0.0%	0.0%
	八幡西区	28人	85.7%	85.7%	78.6%	10.7%	46.4%	0.0%	0.0%
	戸畑区	7人	57.1%	42.9%	42.9%	0.0%	71.4%	0.0%	0.0%

報道の中で暴力団を脅威と感じた回答者について、その内容を見ると、85.5%が「企業や地域住民への発砲(爆破)事件」を選択している。次いで、「暴力団員による重大犯罪(殺人・暴行など)」が75.5%となっており、前回調査と同じ傾向になっている。

一方で、「暴力団員数の多さ」は12.7%と、前回の20.0%から減少している。

問12 あなたは「最近5年間の実生活」の中で、暴力団(員)に対する脅威を感じた(もしくは暴力団員からの被害を受けた)ことがありますか？

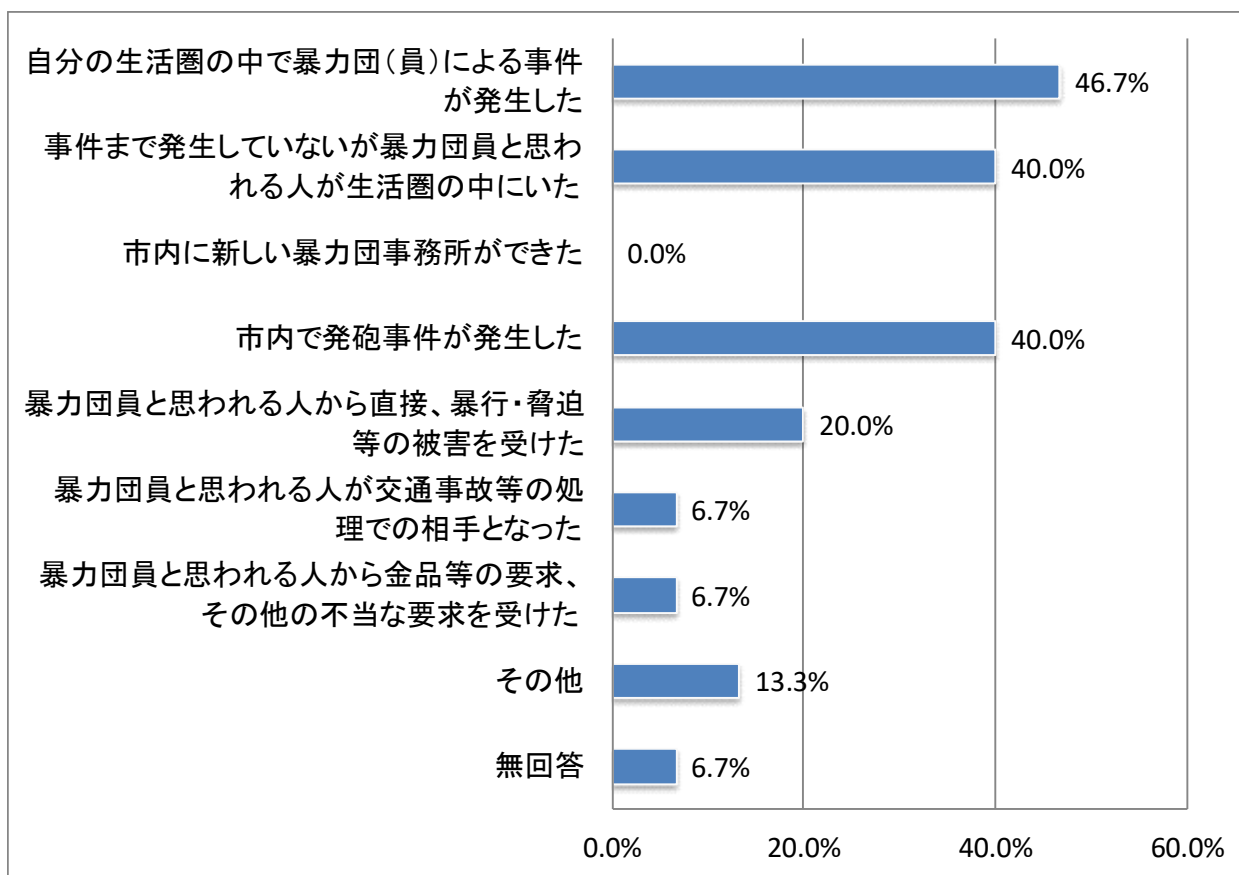


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		133人	11.3%	88.7%	0.0%
性別	男性	41人	12.2%	87.8%	0.0%
	女性	92人	10.9%	89.1%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	25.0%	75.0%	0.0%
	20歳代	11人	9.1%	90.9%	0.0%
	30歳代	31人	12.9%	87.1%	0.0%
	40歳代	29人	10.3%	89.7%	0.0%
	50歳代	20人	5.0%	95.0%	0.0%
	60歳代	28人	14.3%	85.7%	0.0%
	70歳以上	10人	10.0%	90.0%	0.0%
区別	門司区	15人	13.3%	86.7%	0.0%
	小倉北区	25人	20.0%	80.0%	0.0%
	小倉南区	31人	0.0%	100.0%	0.0%
	若松区	12人	8.3%	91.7%	0.0%
	八幡東区	8人	12.5%	87.5%	0.0%
	八幡西区	32人	18.8%	81.3%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	100.0%	0.0%

「実生活」の中での暴力団に対する脅威は、「ない」が、88.7% (前回91.7%)、「ある」が11.3% (前回7.6%) と前回調査と同じ傾向となった。

<問12で「1 ある」と答えた方のみご回答ください。>

問13 あなたが脅威と感じた(もしくは被害を受けた)ことは何ですか？(複数回答可)

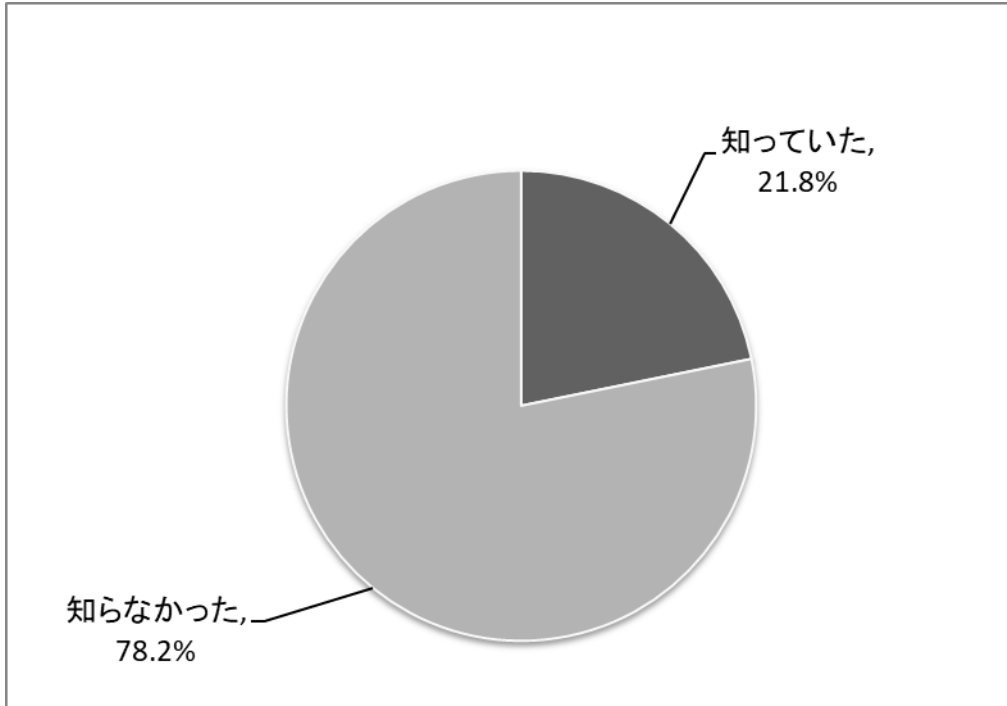


	回答者数	自分の生活圏の中で暴力団(員)による事件が発生した	事件まで発生していないが暴力団員と思われる人が生活圏の中にいた	市内に新しい暴力団事務所ができた	市内で発砲事件が発生した	暴力団員と思われる人から直接、暴行・脅迫等の被害を受けた	暴力団員と思われる人が交通事故等の処理での相手となった	暴力団員と思われる人から金品等の要求、その他の不当な要求を受けた	その他	無回答
全体	15人	46.7%	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	6.7%	6.7%	13.3%	6.7%
性別	男性	5人	60.0%	40.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%
	女性	10人	40.0%	40.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
年齢別	10歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	4人	75.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	3人	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	50歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	4人	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	75.0%	25.0%	25.0%	25.0%
	70歳以上	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	2人	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	小倉北区	5人	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	若松区	1人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	6人	66.7%	33.3%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	16.7%	16.7%
	戸畑区	-	-	-	-	-	-	-	-	-

実生活の中で暴力団を脅威と感じた回答者について、その内容(複数回答)を見ると、「自分の生活圏の中で暴力団(員)による事件が発生した」が46.7%、「事件まで発生していないが暴力団員と思われる人が生活圏の中にいた」「市内で発砲事件が発生した」が各40.0%であった。

問14 あなた自身が暴力団員等から被害を受けた場合や受けるおそれがある場合の専門相談窓口として現在、

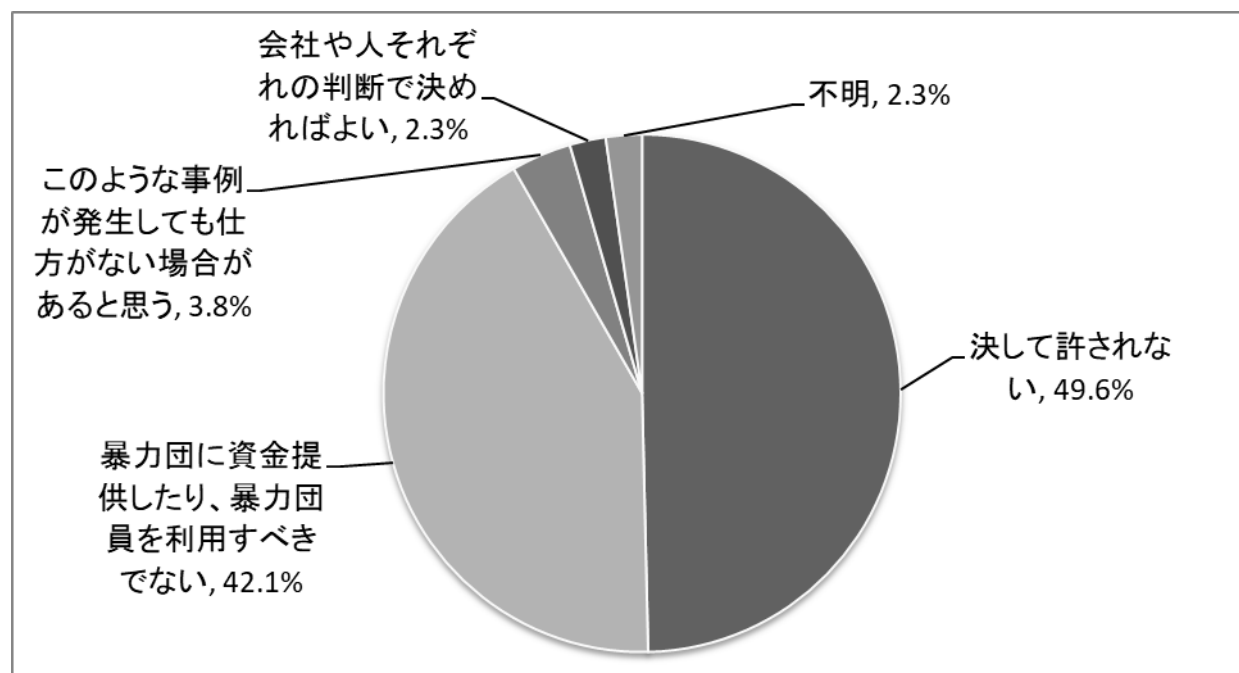
- 北九州市安全・安心相談センター(電話582-2140(ツイホー))【北九州市】
 - 暴力追放ダイヤル(電話582-8930(ヤクザゼロ))【福岡県警察本部(北九州)】
 - 暴力追放ダイヤル(電話092-622-0704)【福岡県警察本部(福岡)】
 - 福岡県暴力追放運動推進センター(電話092-651-8938)
- などがありますが、このような相談窓口(相談ダイヤル)をご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		133人	21.8%	78.2%	0.0%
性別	男性	41人	26.8%	73.2%	0.0%
	女性	92人	19.6%	80.4%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	11人	18.2%	81.8%	0.0%
	30歳代	31人	16.1%	83.9%	0.0%
	40歳代	29人	17.2%	82.8%	0.0%
	50歳代	20人	25.0%	75.0%	0.0%
	60歳代	28人	35.7%	64.3%	0.0%
	70歳以上	10人	20.0%	80.0%	0.0%
区別	門司区	15人	20.0%	80.0%	0.0%
	小倉北区	25人	32.0%	68.0%	0.0%
	小倉南区	31人	12.9%	87.1%	0.0%
	若松区	12人	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	8人	25.0%	75.0%	0.0%
	八幡西区	32人	34.4%	65.6%	0.0%
	戸畑区	10人	10.0%	90.0%	0.0%

「北九州市 安全・安心相談センター」や「福岡県警察 暴力追放ダイヤル」等の認知度は、21.8% (前回調査25.8%) であった。

問15 あなたは、例えば会社や個人が、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行ったりするような行為について、どう考えますか？



		回答者数	決して許されない	暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない	このような事例が発生しても仕方がない場合があると思う	会社や人それぞれの判断で決めればよい	不明
全体		133人	49.6%	42.1%	3.8%	2.3%	2.3%
性別	男性	41人	56.1%	31.7%	4.9%	4.9%	2.4%
	女性	92人	46.7%	46.7%	3.3%	1.1%	2.2%
年齢別	10歳代	4人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	36.4%	45.5%	0.0%	18.2%	0.0%
	30歳代	31人	45.2%	48.4%	3.2%	0.0%	3.2%
	40歳代	29人	51.7%	37.9%	6.9%	3.4%	0.0%
	50歳代	20人	50.0%	45.0%	5.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	28人	53.6%	42.9%	3.6%	0.0%	0.0%
	70歳以上	10人	50.0%	30.0%	0.0%	0.0%	20.0%
区別	門司区	15人	26.7%	60.0%	6.7%	6.7%	0.0%
	小倉北区	25人	28.0%	60.0%	4.0%	0.0%	8.0%
	小倉南区	31人	71.0%	29.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	12人	41.7%	41.7%	8.3%	8.3%	0.0%
	八幡東区	8人	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%	12.5%
	八幡西区	32人	59.4%	31.3%	6.3%	3.1%	0.0%
	戸畑区	10人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

会社や個人で、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行うことに対しては、「決して許されない」「暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない」とする「否定層」が、前回調査の91.7%（前回93.2%）と、同様の傾向であった。

問16 暴力団対策法(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律)では、指定暴力団の構成員が、

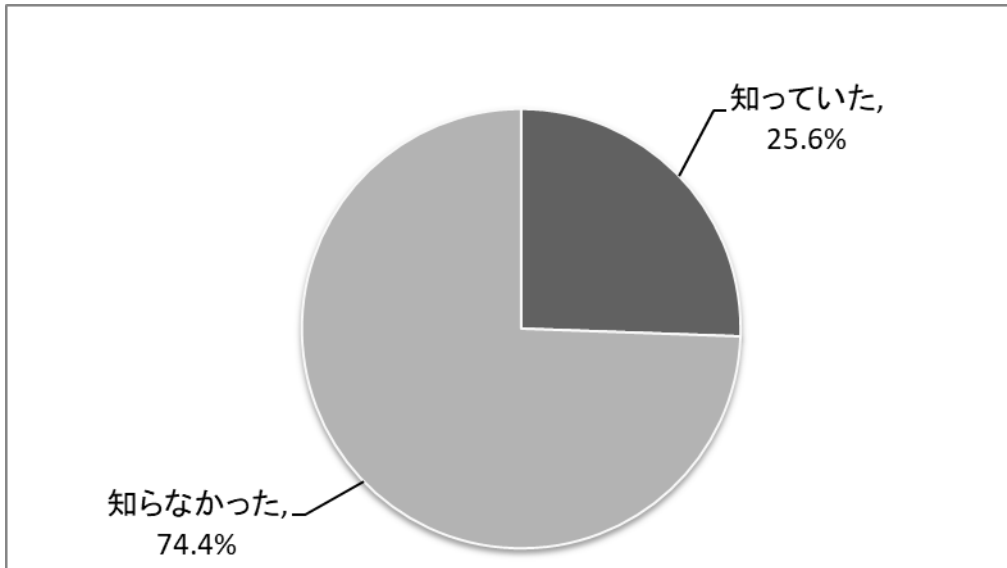
「人の弱みにつけ込んで口止め料を要求する行為」

「交通事故等の示談に介入し、金品等を要求する行為」

「買った商品や受けたサービスの欠陥に因縁をつけて金品等を要求する行為」

など27の行為が禁止され、繰り返し行われるおそれがある場合には、公安委員会または警察署から「中止命令」(従わない場合は逮捕等)を発出できることとなっています。

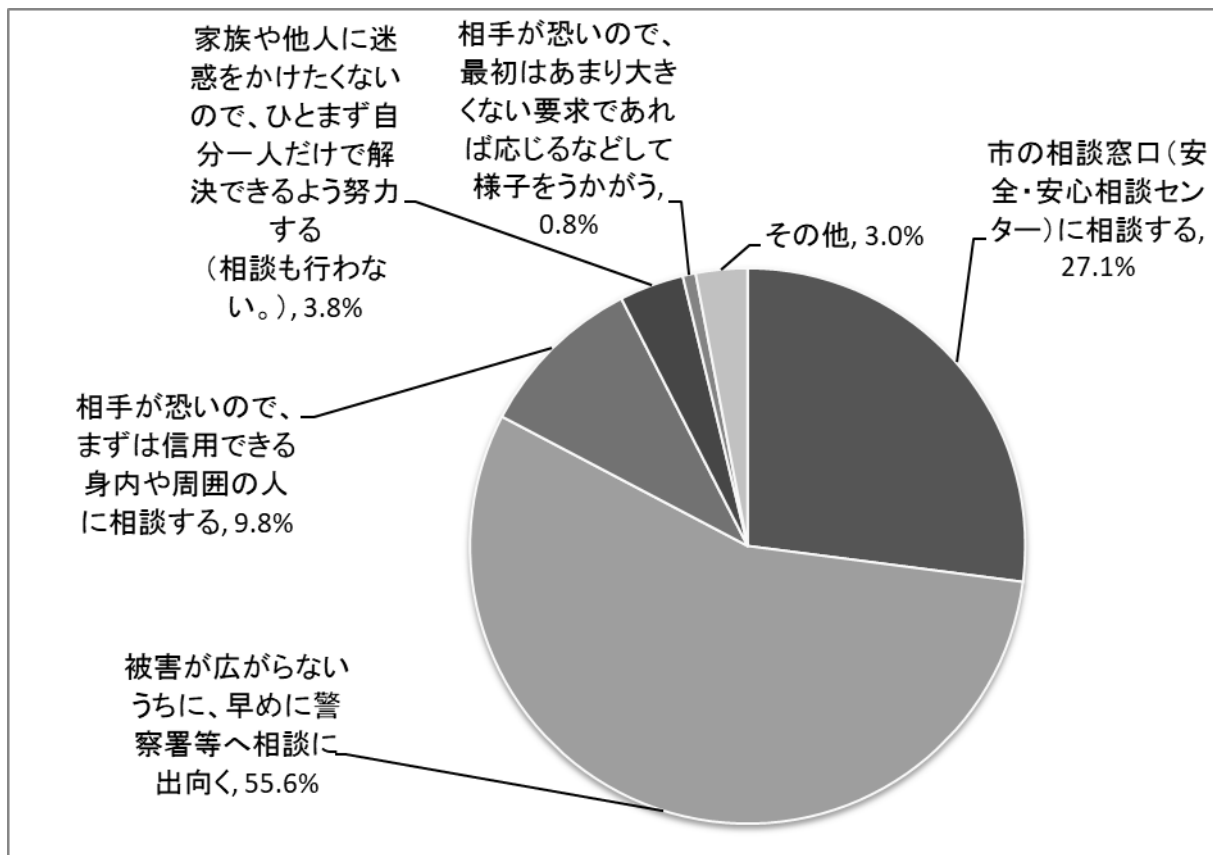
あなたはこのような制度をご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		133人	25.6%	74.4%	0.0%
性別	男性	41人	46.3%	53.7%	0.0%
	女性	92人	16.3%	83.7%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	11人	9.1%	90.9%	0.0%
	30歳代	31人	19.4%	80.6%	0.0%
	40歳代	29人	27.6%	72.4%	0.0%
	50歳代	20人	15.0%	85.0%	0.0%
	60歳代	28人	42.9%	57.1%	0.0%
	70歳以上	10人	40.0%	60.0%	0.0%
区別	門司区	15人	40.0%	60.0%	0.0%
	小倉北区	25人	36.0%	64.0%	0.0%
	小倉南区	31人	16.1%	83.9%	0.0%
	若松区	12人	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	8人	25.0%	75.0%	0.0%
	八幡西区	32人	34.4%	65.6%	0.0%
	戸畑区	10人	10.0%	90.0%	0.0%

暴力団対策法(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律)に規定された「中止命令」についての認知度は、25.6%であった。

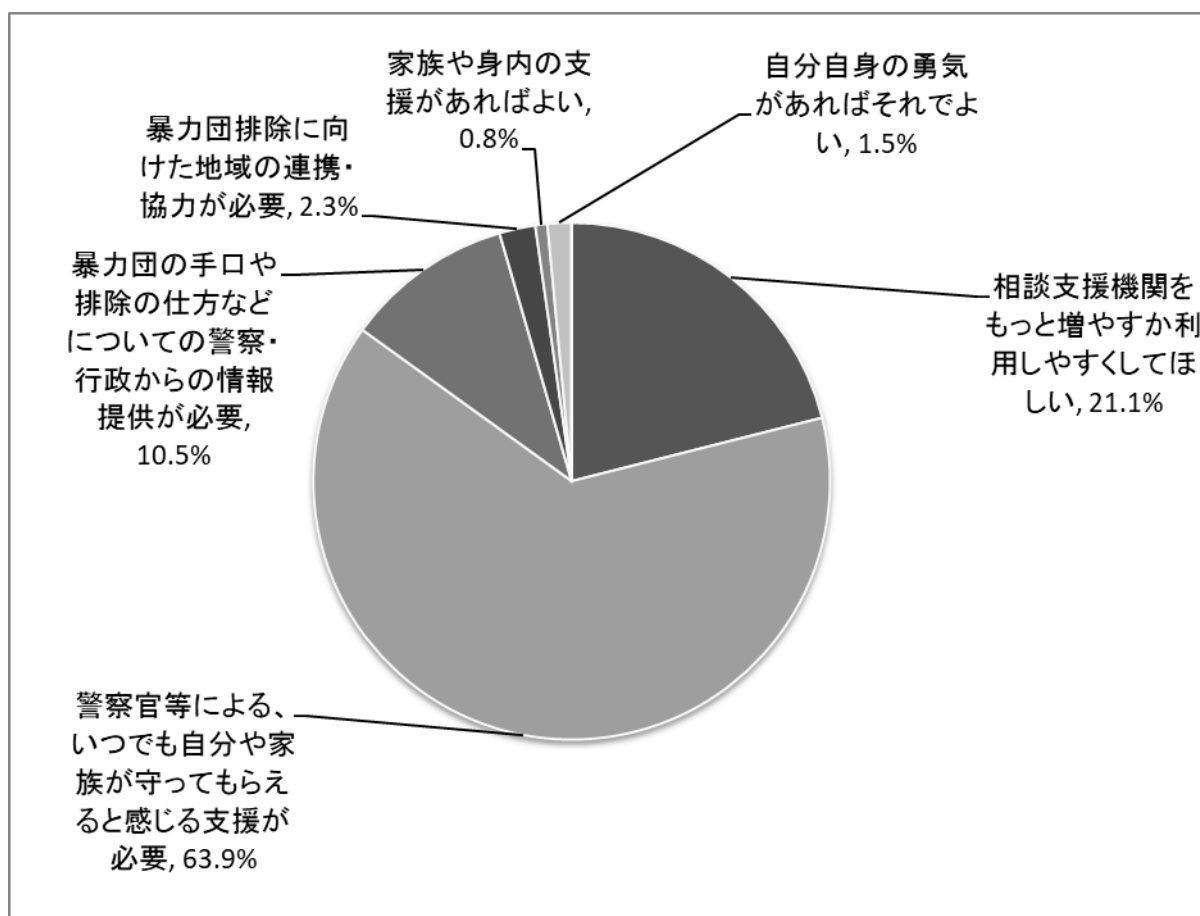
問17 「問16」のような制度が有効に機能するためには、まずは暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな方が勇気をもって警察署等へ相談することが必要となりますが、あなたがそのような事例に巻き込まれた場合、まずはどのように行動されますか。
(次の中から1つ選択してください)



		回答者数	市の相談窓口(安全・安心相談センター)に相談する	被害が広がらないうちに、早めに警察署等へ相談に出向く	相手が恐いので、まずは信用できる身内や周囲の人に相談する	家族や他人に迷惑をかけたくないので、ひとまず自分一人だけで解決できるよう努力する(相談も行わない。)	相手が恐いので、最初はあまり大きな要求であれば応じるなどして様子をうかがう	その他	無回答
全体		133人	27.1%	55.6%	9.8%	3.8%	0.8%	3.0%	0.0%
性別	男性	41人	19.5%	61.0%	12.2%	2.4%	0.0%	4.9%	0.0%
	女性	92人	30.4%	53.3%	8.7%	4.3%	1.1%	2.2%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	9.1%	63.6%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	29.0%	51.6%	16.1%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	29人	44.8%	41.4%	6.9%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%
	50歳代	20人	15.0%	55.0%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	60歳代	28人	21.4%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%
	70歳以上	10人	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	15人	26.7%	46.7%	13.3%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%
	小倉北区	25人	20.0%	60.0%	4.0%	8.0%	4.0%	4.0%	0.0%
	小倉南区	31人	35.5%	54.8%	6.5%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	12人	33.3%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
	八幡東区	8人	12.5%	62.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	21.9%	65.6%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな場合に、まずはとる行動として、「被害が広がらないうちに早めに警察署等へ相談に出向く」と「市の相談窓口(安全・安心相談センター)に相談する」が合わせて82.7%と、公的機関へ相談する回答が一番多い結果となった。

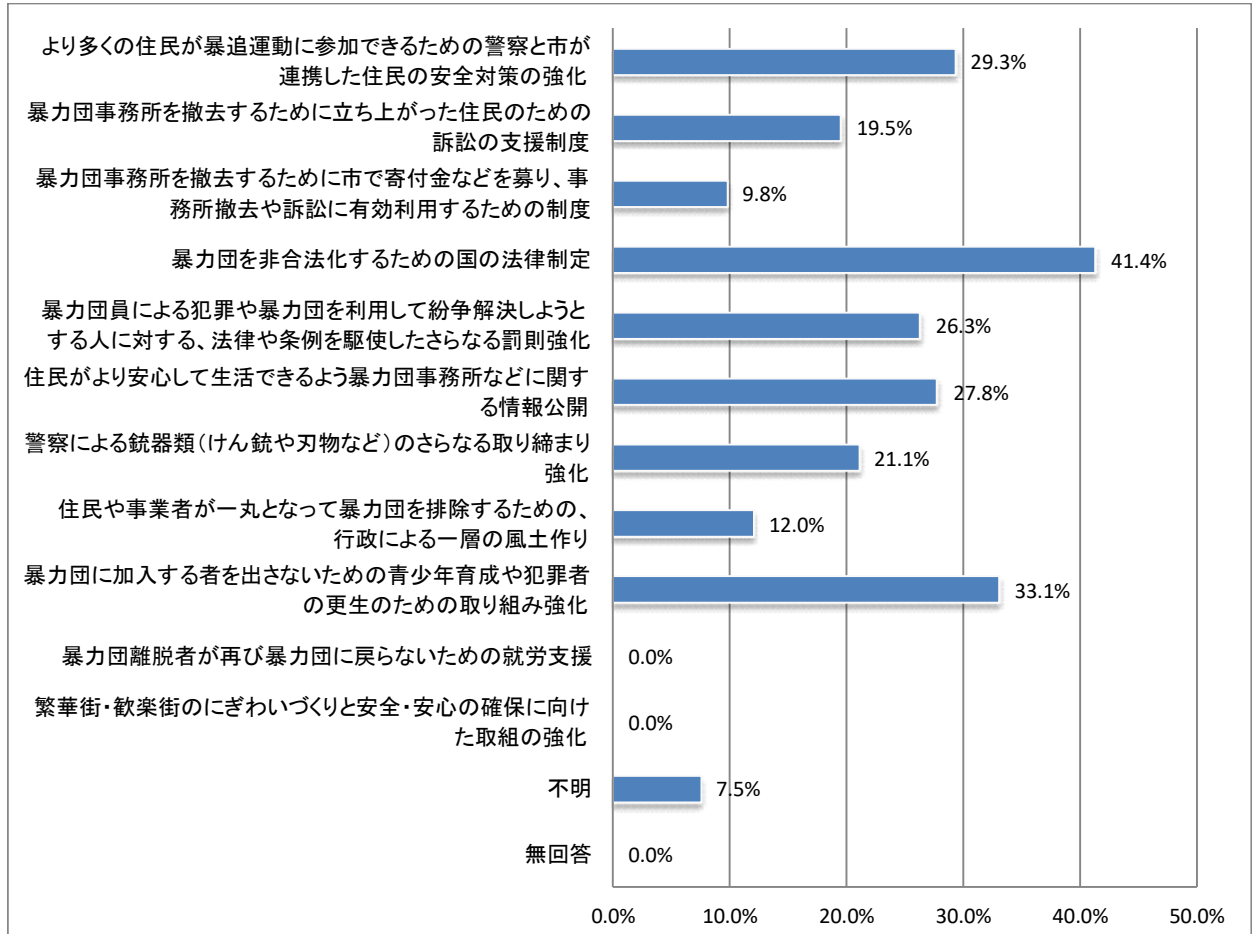
問18 あなた自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として、今以上に必要なものは何だとお考えですか？
 (一番必要だと思うものを1つ選択してください。)



	回答者数	相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい	警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援が必要	暴力団の手口や排除の仕方などについての警察・行政からの情報提供が必要	暴力団排除に向けた地域の連携・協力が必要	家族や身内の支援があればよい	自分自身の勇気があればそれでよい	その他	無回答
全体	133人	21.1%	63.9%	10.5%	2.3%	0.8%	1.5%	0.0%	0.0%
性別	男性	41人	26.8%	58.5%	7.3%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%
	女性	92人	18.5%	66.3%	12.0%	2.2%	0.0%	1.1%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	16.1%	64.5%	12.9%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	29人	17.2%	65.5%	17.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	20人	30.0%	60.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	28人	25.0%	57.1%	10.7%	0.0%	3.6%	3.6%	0.0%
	70歳以上	10人	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	15人	20.0%	60.0%	13.3%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%
	小倉北区	25人	32.0%	52.0%	12.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%
	小倉南区	31人	16.1%	64.5%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	12人	25.0%	58.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	8人	37.5%	37.5%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	12.5%	81.3%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%
	戸畑区	10人	20.0%	70.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%

自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として今以上に必要なものは、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」が半数以上の63.9%を占めた。次いで「相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい」との回答が21.1%と、前回調査と同じ傾向であった。

問19 あなたは暴力団排除に向けた行政の施策として、今後、特に必要と考えるものは次のうちどれですか？（特に必要だと思うものを3つまで選択してください）

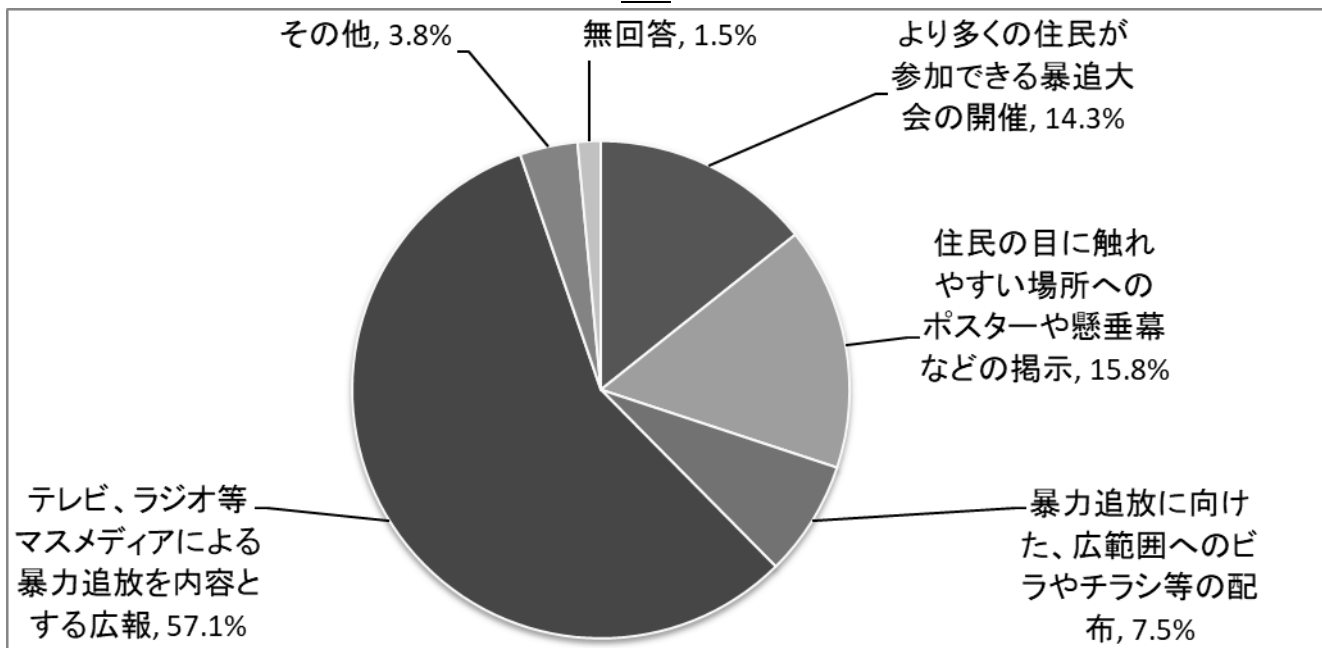


	回答者数	より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した住民の安全対策の強化	暴力団事務所を撤去するために立ち上がった住民のための訴訟の支援制度	暴力団事務所を撤去するために市で寄付金などを募り、事務所撤去や訴訟に有効利用するための制度	暴力団を非合法化するための国の法律制定	暴力団員による犯罪や暴力団を利用して紛争解決しようとする人に対する、法律や条例を駆使したさらなる罰則強化	住民がより安心して生活できるよう暴力団事務所などに関する情報公開	警察による銃器類（けん銃や刃物など）のさらなる取り締まり強化	住民や事業者が一丸となって暴力団を排除するための、行政による一層の風土作り	暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の更生のための取り組み強化	暴力団離脱者が再び暴力団に戻らないための就労支援	繁華街・歓楽街のにぎわいづくりと安全・安心の確保に向けた取組の強化	不明	無回答
全体	133人	29.3%	19.5%	9.8%	41.4%	26.3%	27.8%	21.1%	12.0%	33.1%	0.0%	0.0%	7.5%	0.0%
性別														
男性	41人	39.0%	17.1%	12.2%	46.3%	26.8%	22.0%	14.6%	9.8%	34.1%	0.0%	0.0%	7.3%	0.0%
女性	92人	25.0%	20.7%	8.7%	39.1%	26.1%	30.4%	23.9%	13.0%	32.6%	0.0%	0.0%	7.6%	0.0%
年齢別														
10歳代	4人	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
20歳代	11人	45.5%	18.2%	0.0%	27.3%	9.1%	36.4%	18.2%	0.0%	63.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	31人	19.4%	19.4%	12.9%	32.3%	22.6%	35.5%	19.4%	6.5%	22.6%	0.0%	0.0%	9.7%	0.0%
40歳代	29人	31.0%	13.8%	10.3%	44.8%	20.7%	24.1%	34.5%	17.2%	34.5%	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%
50歳代	20人	35.0%	20.0%	15.0%	35.0%	35.0%	25.0%	20.0%	20.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
60歳代	28人	35.7%	28.6%	7.1%	53.6%	39.3%	17.9%	10.7%	7.1%	35.7%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%
70歳以上	10人	20.0%	20.0%	0.0%	50.0%	30.0%	40.0%	30.0%	30.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別														
門司区	15人	20.0%	40.0%	0.0%	53.3%	40.0%	26.7%	13.3%	13.3%	46.7%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
小倉北区	25人	32.0%	28.0%	8.0%	40.0%	40.0%	28.0%	20.0%	12.0%	24.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%
小倉南区	31人	35.5%	16.1%	6.5%	29.0%	19.4%	25.8%	22.6%	12.9%	45.2%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%
若松区	12人	16.7%	8.3%	25.0%	41.7%	8.3%	58.3%	8.3%	8.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
八幡東区	8人	50.0%	12.5%	25.0%	37.5%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
八幡西区	32人	34.4%	12.5%	12.5%	46.9%	25.0%	28.1%	31.3%	9.4%	18.8%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%
戸畑区	10人	0.0%	20.0%	0.0%	50.0%	30.0%	20.0%	20.0%	20.0%	50.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%

暴力団排除に向けた施策ニーズは、「国の法整備」が41.4%と前回同様の1位。

次いで「暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の更生のための取り組み強化」が33.1%で、前回同様の2位となった。

問20 あなたを含めた市民の皆様が、今後、より暴力団排除意識を高揚させるためには、どのようなPR手法が有効とお考えですか？（次の中から1つ選択してください）

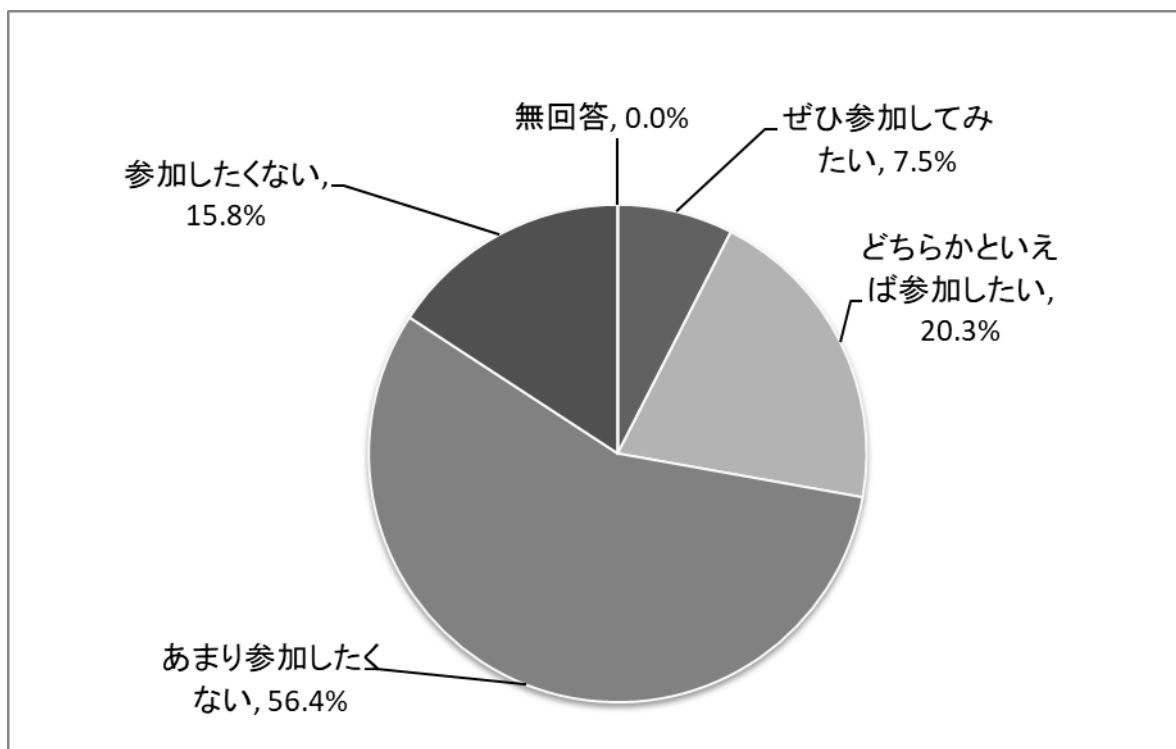


		回答者数	より多くの住民が参加できる暴追大会の開催	住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示	暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布	テレビ、ラジオ等マスメディアによる暴力追放を内容とする広報	その他	無回答
全体		133人	14.3%	15.8%	7.5%	57.1%	3.8%	1.5%
性別	男性	41人	24.4%	7.3%	9.8%	51.2%	4.9%	2.4%
	女性	92人	9.8%	19.6%	6.5%	59.8%	3.3%	1.1%
年齢別	10歳代	4人	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	0.0%	0.0%	18.2%	72.7%	9.1%	0.0%
	30歳代	31人	9.7%	29.0%	9.7%	51.6%	0.0%	0.0%
	40歳代	29人	17.2%	17.2%	0.0%	55.2%	6.9%	3.4%
	50歳代	20人	20.0%	5.0%	5.0%	70.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	28人	17.9%	14.3%	3.6%	53.6%	7.1%	3.6%
	70歳以上	10人	10.0%	20.0%	20.0%	50.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	15人	0.0%	6.7%	6.7%	73.3%	13.3%	0.0%
	小倉北区	25人	20.0%	12.0%	4.0%	60.0%	4.0%	0.0%
	小倉南区	31人	22.6%	16.1%	9.7%	48.4%	3.2%	0.0%
	若松区	12人	16.7%	8.3%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	8人	25.0%	12.5%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	9.4%	25.0%	9.4%	50.0%	3.1%	3.1%
	戸畑区	10人	0.0%	20.0%	0.0%	70.0%	0.0%	10.0%

暴力団排除意識の高揚にあたっての有効なPR手法としては、半数以上の回答者が「マスメディアによる広報」が有効と考えている。

次いで「住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示」が15.8%、「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」が14.3%、と前回調査と同様の傾向となっている。

問21 現在、県警察や市などの主催により、市内各地で暴力追放大会や暴追パレードが開催されていますが、あなたは参加する時間があるとした場合に、このような活動に参加することについてどのようにお考えですか？

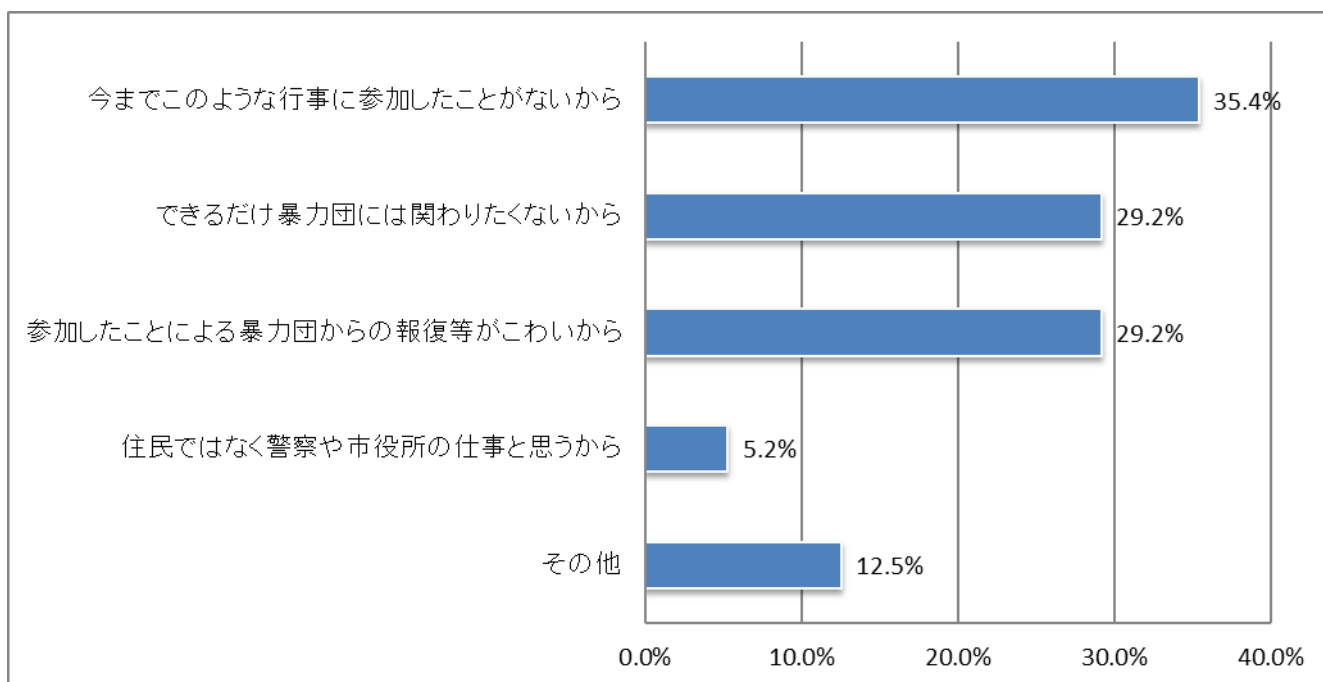


		回答者数	ぜひ参加してみたい	どちらかといえば参加したい	あまり参加したくない	参加したくない	無回答
全体		133人	7.5%	20.3%	56.4%	15.8%	0.0%
性別	男性	41人	22.0%	29.3%	39.0%	9.8%	0.0%
	女性	92人	1.1%	16.3%	64.1%	18.5%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	9.1%	27.3%	54.5%	9.1%	0.0%
	30歳代	31人	3.2%	19.4%	58.1%	19.4%	0.0%
	40歳代	29人	6.9%	13.8%	58.6%	20.7%	0.0%
	50歳代	20人	0.0%	10.0%	60.0%	30.0%	0.0%
	60歳代	28人	10.7%	39.3%	46.4%	3.6%	0.0%
	70歳以上	10人	20.0%	10.0%	60.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	15人	13.3%	6.7%	60.0%	20.0%	0.0%
	小倉北区	25人	4.0%	28.0%	52.0%	16.0%	0.0%
	小倉南区	31人	6.5%	22.6%	61.3%	9.7%	0.0%
	若松区	12人	8.3%	8.3%	58.3%	25.0%	0.0%
	八幡東区	8人	12.5%	12.5%	75.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	9.4%	31.3%	40.6%	18.8%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%

暴追大会や暴追パレードに対する参加意向としては、
 ○参加したい層 27.8% であるのに対し、
 ○参加したくない層 72.2% であった。
 と、前回調査と同様の傾向となった。

<問21で「3 あまり参加したくない」、「4 参加したくない」と答えた方のみご回答ください。>

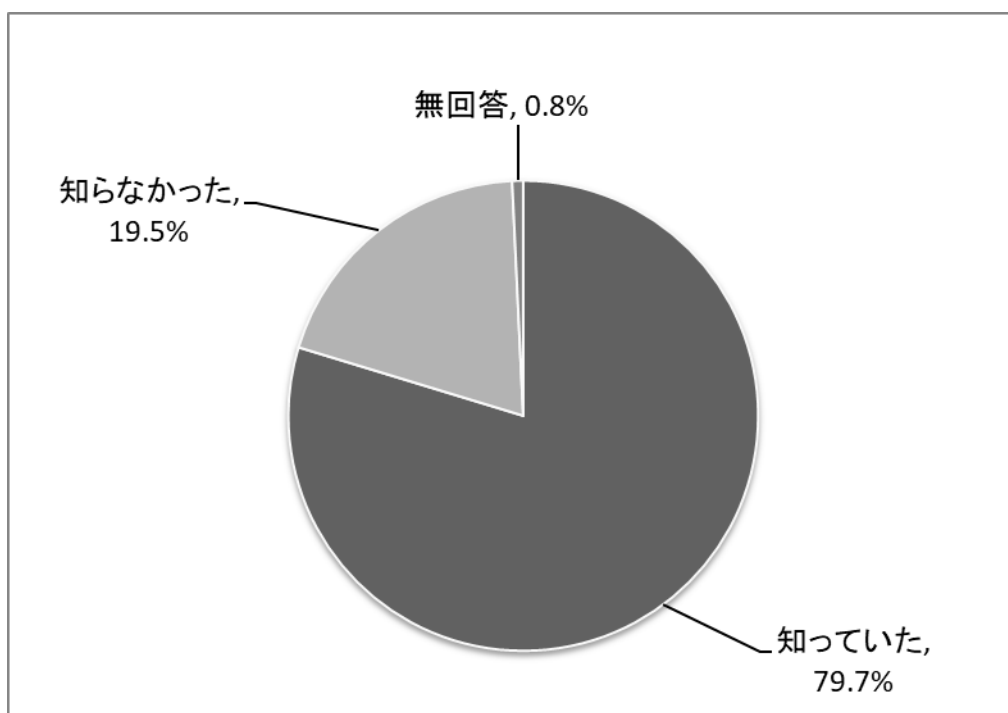
問22 その理由は何ですか？(複数回答可)



		回答者数	今までこのような行事に参加したことがないから	できるだけ暴力団には関わりたくないから	参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから	住民ではなく警察や市役所の仕事と思うから	その他	無回答
全体		96人	35.4%	29.2%	29.2%	5.2%	12.5%	0.0%
性別	男性	20人	45.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	女性	76人	32.9%	31.6%	31.6%	6.6%	10.5%	0.0%
年齢別	10歳代	3人	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	7人	0.0%	57.1%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%
	30歳代	24人	41.7%	25.0%	33.3%	0.0%	8.3%	0.0%
	40歳代	23人	43.5%	26.1%	21.7%	21.7%	13.0%	0.0%
	50歳代	18人	44.4%	27.8%	16.7%	0.0%	11.1%	0.0%
	60歳代	14人	21.4%	21.4%	42.9%	0.0%	21.4%	0.0%
	70歳以上	7人	28.6%	42.9%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%
区別	門司区	12人	0.0%	25.0%	41.7%	8.3%	25.0%	0.0%
	小倉北区	17人	41.2%	29.4%	41.2%	11.8%	11.8%	0.0%
	小倉南区	22人	45.5%	40.9%	18.2%	9.1%	4.5%	0.0%
	若松区	10人	20.0%	30.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	6人	33.3%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	19人	36.8%	26.3%	21.1%	0.0%	15.8%	0.0%
	戸畑区	10人	60.0%	20.0%	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%

暴追大会や暴追パレードに「参加したくない層」の理由としては、「今までこのような行事に参加したことがないから」が35.4%となっており、次いで「できるだけ暴力団には関わりたくないから」「参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから」が29.2%と、前回調査と同様の傾向となった。

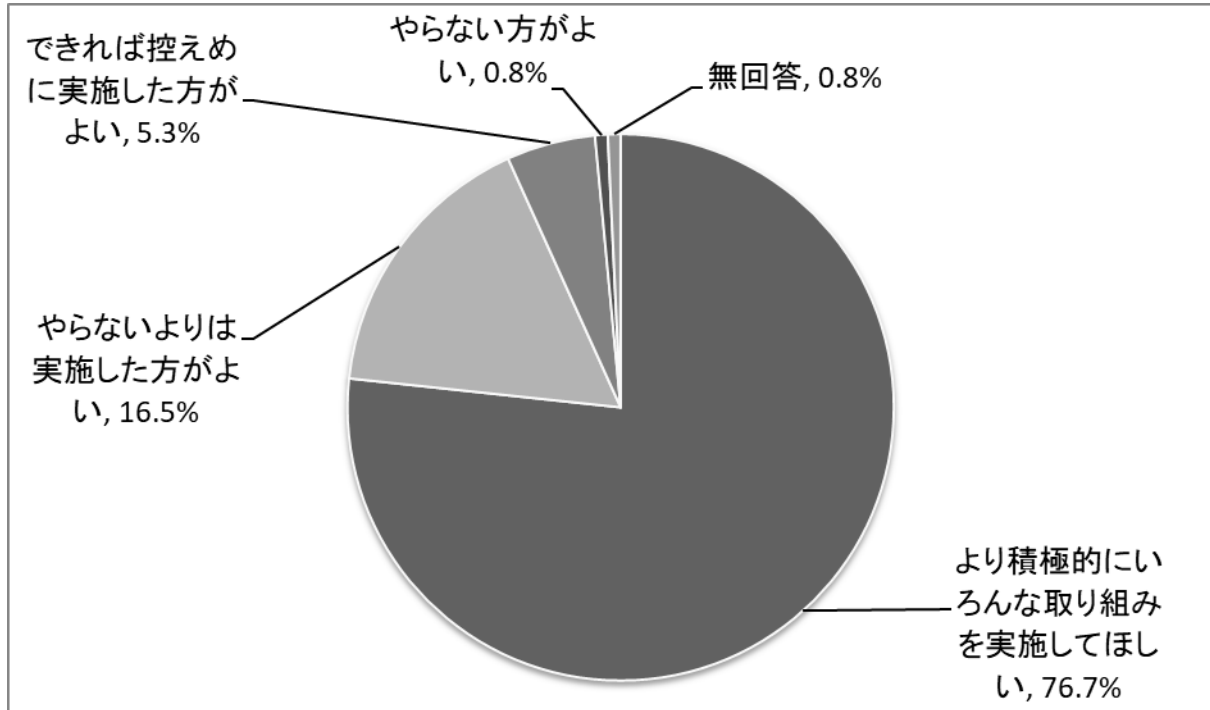
問23 青少年の非行問題として、暴走族への加入、大麻や危険ドラッグ等薬物乱用、出会い系サイトによる少女売春などが社会問題化していますが、あなたはこれらのいずれも、暴力団加入の予備軍になっていたり、暴力団の資金源となっている実態があることをご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		133人	79.7%	19.5%	0.8%
性別	男性	41人	82.9%	17.1%	0.0%
	女性	92人	78.3%	20.7%	1.1%
年齢別	10歳代	4人	100.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	81.8%	18.2%	0.0%
	30歳代	31人	74.2%	25.8%	0.0%
	40歳代	29人	82.8%	17.2%	0.0%
	50歳代	20人	75.0%	20.0%	5.0%
	60歳代	28人	82.1%	17.9%	0.0%
	70歳以上	10人	80.0%	20.0%	0.0%
区別	門司区	15人	73.3%	26.7%	0.0%
	小倉北区	25人	80.0%	16.0%	4.0%
	小倉南区	31人	83.9%	16.1%	0.0%
	若松区	12人	83.3%	16.7%	0.0%
	八幡東区	8人	75.0%	25.0%	0.0%
	八幡西区	32人	78.1%	21.9%	0.0%
	戸畑区	10人	80.0%	20.0%	0.0%

青少年の非行問題が、暴力団への加入に繋がったり、暴力団の資金源となっていることに対する認知度は、79.7%（前回84.1%）と高く、前回調査と同様の認知度であった。

問24 現在、県警察では県内の中学・高校で暴力団排除講演を実施するなどの取り組みを実施しています。あなたはこれらの取り組みについて、どのようにお考えですか？

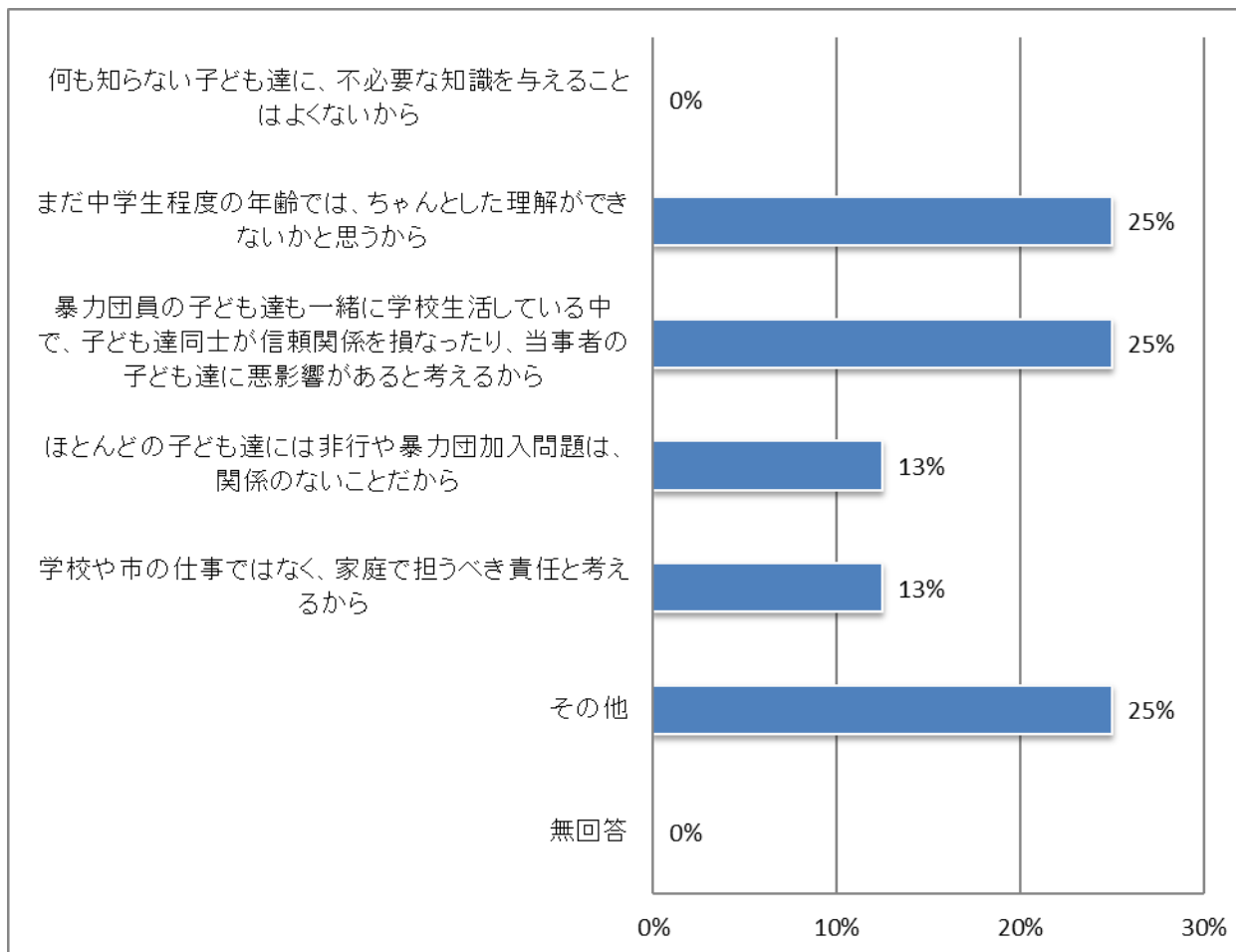


		回答者数	より積極的にいろいろな取り組みを実施してほしい	やらないよりは実施した方がよい	できれば控えめに実施した方がよい	やらない方がよい	無回答
全体		133人	76.7%	16.5%	5.3%	0.8%	0.8%
性別	男性	41人	78.0%	17.1%	0.0%	2.4%	2.4%
	女性	92人	76.1%	16.3%	7.6%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	4人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	87.1%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	29人	62.1%	24.1%	10.3%	0.0%	3.4%
	50歳代	20人	70.0%	15.0%	15.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	28人	78.6%	17.9%	0.0%	3.6%	0.0%
	70歳以上	10人	90.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	15人	66.7%	20.0%	6.7%	6.7%	0.0%
	小倉北区	25人	80.0%	16.0%	4.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	31人	83.9%	9.7%	6.5%	0.0%	0.0%
	若松区	12人	66.7%	25.0%	0.0%	0.0%	8.3%
	八幡東区	8人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32人	81.3%	12.5%	6.3%	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	60.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%

県警察が実施している県内の中学・高校で実施している暴力団排除講演などの取り組みに対する回答者の意向としては、肯定的な見方（より積極的に実施してほしい＋やらないよりは実施した方がよい）が93.2%（前回97.7%）と大半を占めており、否定的な見方（できれば控えめに実施した方がよい＋やらない方がよい）は6.1%（前回1.6%）であった。

<問24で「3 できれば控えめに実施の方がよい」、「4 やらない方がよい」と答えた方のみご回答下さい。>

問25 その理由は何ですか？(主なものを1つ選択してください)



		回答者数	何も知らない子ども達に、 unnecessary knowledge is not good	まだ中学生程度の年齢では、ちゃんとした理解ができないかと思うから	暴力団員の子ども達も一緒に学校生活している中で、子ども達同士が信頼関係を損なったり、当事者の子ども達に悪影響があるから	ほとんどの子ども達には非行や暴力団加入問題は、関係のないことだから	学校や市の仕事ではなく、家庭で担うべき責任と考えるから	その他	無回答
全体		8人	0%	25%	25%	13%	13%	25%	0%
性別	男性	1人	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
	女性	7人	0%	29%	29%	14%	14%	14%	0%
年齢別	10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	3人	0%	33%	0%	33%	0%	33%	0%
	50歳代	3人	0%	0%	67%	0%	33%	0%	0%
	60歳代	1人	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
	70歳以上	1人	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%
区別	門司区	2人	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%
	小倉北区	1人	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%
	小倉南区	2人	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%
	若松区	-	-	-	-	-	-	-	-
	八幡東区	-	-	-	-	-	-	-	-
	八幡西区	2人	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%
	戸畑区	1人	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%

県警察が実施している県内の中学・高校で実施している暴力団排除講演などの取り組みに対して「何も知らない子ども達に、 unnecessary knowledge is not good」との回答は0だった。

問26 その他、暴力団対策をはじめとする暴力追放推進施策に関するご意見のある方は、ご自由に記入下さい。

50件のご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

- ・ 一連の対策による効果、実際の勢力、課題など分かりやすく広報する必要がある。
- ・ 一生懸命に他人様にだけは迷惑を掛けまいと頑張ってきた私たち一般人と暴力団を辞めた人を、同列に扱うようなことは止めて頂きたい。
今の北九州市や警察機関のやり方は、構成員が脱退をすれば、後は一般市民だから自分たちで頑張るというスタンスにしか受け取れない。
生活が立ち行かなくなった途端に暴力団組織団体を解散したり抜けたりしただけで、後は行政自治体や警察機関がキチンと面倒を見て支援してくれるなら、地域や住民に迷惑を掛けたり恐怖を与えて好き勝手やったモン勝ちという間違ったメッセージを子どもたちに送ることに繋がる
元暴力団員だったからと差別はダメだというならば、解散した暴力団トップを含めた幹部や元構成員を北九州市職員や警察官として雇用してみたら如何か。
- ・ 近くの暴力団がいなくなったのですみよい町に成った。以前と違って小倉の町も安心できる。
- ・ 警察の本気度が不明。
- ・ 以前「北九州は暴力団が多いからこわい」とよく言われた。今は、その頃に比べたら、少し、良くなっているように感じる。
暴力団と、かわりがない市民は、「人ごと」としか考えられない。こんなことでは暴力団はなくなる
ない。
- ・ 関りがないのでわからない。
- ・ 若者が暴力団にならない事が大事。若者の生活、就職支援など、暴力団以外の選択肢の充実。
- ・ 暴力団に限らず、半グレ集団みたいな団体も追放してほしい。
- ・ 実体験として受け止める事の難しい問題。実際に係わるとこわい事。行政や警察が守ってくれると実感できる対策を。
- ・ 世の中の不条理(汚いやり方で成功しているもの…コネによる入社(市関連の各職場 外郭含む))を垣間見るとき、暴力団ではないが、隠れたヒーローの活躍を望む気持ちはある。中学・高校生の非行化に対処する為、家庭への支援(収入増、家庭内環境良化他)が必要。
- ・ 暴力団の存在をすべての人に理解出来るようPRしてほしい。
- ・ 北九州市＝暴力団員が住む地域というイメージがとても強い。北九州市に引っ越しをする時、福岡県在住の知人たちから怖い街だけど大丈夫か？と何度も聞かれた。実際住んでみると暴力団員を身近に感じない。北九州市＝暴力団員が減って安全だというイメージを市外の人に広めるようなこともしてほしい。

- ・ 昔の仁義なき戦いのような任侠ものは、良くも悪くも評価は出来ないが、薬やドラッグ、素人さん相手に違法行為をするのは許せない。市民が巻き込まれないように、国、自治体、警察のパトロールを強化して、目を光らせてほしいし、子ども達に、手口、落とし入れられた悪い例など、講演にきて、教えてほしい。
- ・ 現在、大きな組事務所もある北九州を行政などの協力で、安全に過ごせる町に継続して力を入れてほしい。
- ・ 工藤会壊滅作戦が効果を上げていると思う。もっと効果を周知し、全市的な気運を高めるべき。
- ・ 警察官のパトロールや市民の情報収集をして、追放していく。暴力団の事務所を撤去する。
- ・ 暴力団等にあこがれを抱く子どもたちもいると思うので暴力団排除講演会は予備軍防止について、有効だ。
大人もいま一度、暴力団は、どういったもので、どうよくないのか認識もあらためないといけないといけない。
身近なところ(市民センターや掲示板)のポスターに相談先の電話番号などがあれば心強い。
- ・ 最近、重大な事件もなく、関係者の方々に感謝する。でも、そんな中で息を潜めている暴力団がいると思うとまだまだ安心できない。このような時期だからこそ、もっと声を出して、暴力追放を呼びかけていただきたい。
- ・ 暴力団とはいったいどう言う組織なのか、歴史とかいつから出来たのか、何故今の時代に必要なのか実態を知りたい。
- ・ 夜間に安心して出歩けるような地域作りを行ってほしい。小倉の商店街や黒崎の商店街付近は、今だに夜間歩くのは不安がある。警察が夜間パトロールをしてはいるが、それだけでは現状はほぼ改善されていない。
暗い道に街灯を設置したり、街中に監視カメラを設置したりすることで、少し改善に近づくのではないかな。
- ・ 中学校や高校の時に、暴力団に関する講演会で1年に1回程度聞いていた。自分は入らないと思っていても、いつのまにか入っていたなど、暴力団はとても怖いものだった。また、中々、抜け出すこともできない。今後も、小さい頃からこのように、講演会を開いて教育していくことが大切だと思う。
- ・ 他都市から福岡に来て、暴力団関係のニュースの身近さには少し驚いた。悪い意味だけではなく、市政、警察が頑張っていることも感じられたが、やはり対抗という面ばかり取り沙汰されて、前向きな要素がないのがこの活動のネックだと思う。ドラッグに手を出さないでいられる健康的な暮らし、暴力・圧力を利用しないでいられる公平明解な解決、電話詐欺に引っかからないでいられる賢い老後、そういったものを築く活動も合わせたものになれば活動のイメージが良くなりそうだと思う。
- ・ 地元の親戚、友達は「北九州⇒暴力団がたくさん、治安悪い」と、心配している。北九州のイメージはよくない。今、住んでる地域は治安が良いと安心して暮らしているが。
なかなか北九州のイメージは、変わらないのが残念。

- ・暴力団はさみしい人達の集まりだと思っている。元やくざだけど、不器用でやさしい人もいる。やめたくても、仕返しが怖くてやめられない人が、中にはたくさんいると思う。ネットはばれると思うので相談ダイヤルがあったら何人かはこっそりとかけてくるはず。行き場がないから集団でいるのに追放ばかりして逃げ場がないのはかわいそう。まずは、心の声を聞くことからスタートした方がいいのでは。内部情報を教えてくれるやくざさんがでてきて、事件を防ぐことにつながるかもしれない。
- ・暴力団を目にすることは無いのだが、どこで何をしているか、具体的に教えて欲しい。巻き込まれたくない。
- ・夜中に騒音をまき散らすバイクの暴走族を取り締まってほしい。
- ・出来れば半年に1回位、暴力団排除の講演をすれば良いと思う。
- ・現在北九州では暴力団員が減り続けているとのことだが、これを契機に警察の取り締りをますます厳しくして欲しい。
- ・暴走運動は、もっと積極的に行った方が良いと思う。
- ・他県より引っ越してきた者としては北九州に暴力団のイメージが強い。また暴力団＝ヤンキーという負のイメージも根付いている。暴力団対策は北九州のイメージアップにもつながると思うので、これからもがんばってほしい。
- ・協力出来ることは、協力する
- ・北九州市は、暴力団が多くて怖いイメージがあり、暴力追放推進を強く望む。
- ・市民を標的とした組織は悪以外の何者でもないが、半グレ集団や海外マフィアに暴対法が適用できない現状を見れば、本当に暴力団がいなくなって大丈夫なのか心配になる。
- ・特定危険指定暴力団のトップ検挙により暴力団の数が減少してきたが、100%ではない。更に一層、市民全員による認識を新たに、壊滅作戦の必要を感じる。
- ・もっと市民が安心して暮らせるまちづくりをして欲しい。
- ・暴力団離脱者に対する就労支援が足りないようなことをテレビで知った。北九州市は暴力団員の数が決して少なくないので大変だと思うが、もっと進んで就労支援をお願いしたい。
- ・警察に相談しやすい窓口を設置してほしい。
- ・子ども達に危険なことは、しっかり危険だと伝えてほしい。中途半端に興味をもつような内容ではなく、しっかりリアルな内容を伝えてほしい。ポスターだけでは伝わりにくい。
- ・事件が起こってからでないと報道されないので、普段から、相談件数や、可能な範囲で相談内容、どんな対策をしているかなど、市のHPや市政だよりなどで、わかるようにすれば、市民の意識も高まると思う。

- ・ 暴力団を抜けた人たちへの適切な就労支援とサポート(生活全般)の強化、市民の再起を応援する理解が必要と考える。
- ・ ビラやチラシは目を通したら捨てられることが多いと思うが、ポスターや懸垂幕だと視界に入りやすいので、良いと思う。常にそういった排除姿勢を目にすることにより、市民も安心感が増すと思う。一方で、(暴力団を)離脱した方の就労問題もネットなどでよく目にするので、排除だけでなく、覚悟をもって離脱した方への支援も必要だと思う。
北九州は物騒だと思っている他県の方も多いと思うので、悪いイメージを払拭していただきたい。
- ・ 本腰をいれてしてほしい。形だけはやめてほしい。
- ・ 日本から暴力団がなくなると、中国マフィアが入り込んでくるという話を聞いたことがある。一般市民に手を出さずに存在するなら許容せざるを得ないのでは?とも思う。
- ・ もっとテレビ等で宣伝してほしい。
- ・ 市営住宅などには入居できないことになっていると思うが、色々な方法で入居していると聞く。住民は恐れているとも聞いたことがある。取り締まりを警察と連携して強化するなど、是非、対策を。
- ・ 今のやり方はほぼ肯定できると思う。ただ暴力団への人材流入や暴力団の活性化は、社会全般の格差拡大や、孤立化、特に若者の連帯感のなさ(見かけ上の盛り上がりは得意だが単なるポーズ)ネットの炎上等にみられる非寛容の拡大、政治家等のポピュリズム志向などが悪の栄養素になっていると考えらる。暴力追放は広い視野からの処方箋が必要。
- ・ 先日の報道にて逮捕された祭り関係者。他にも疑念が残ります。子供育成の立場を意識すれば、そういう意味でも警察が絡み対応して頂きたい。

IV 全体考察

本市では、市民の皆様が安全に安心して暮らせる社会の確保と、社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的として、平成22年7月に「北九州市暴力団排除条例」を施行し、県警察、市、市民や事業者の皆様が一丸となった暴力団排除を推進している。

今回、今後の暴力追放に向けた施策を効果的に推進するため、暴力団排除条例に関する認知度や暴力団排除に向けた市民ニーズの把握に関する設問などを中心に、アンケート調査を実施した。

【暴力団排除条例の認知度について】

- 福岡県暴力団排除条例（平成22年4月施行）の認知度が66.9%、北九州市暴力団排除条例（平成22年7月施行）の認知度は57.1%であり、前回調査同様にいずれも半数を上回っている。
- 福岡県暴力団排除条例では「暴力団員に対する利益供与の禁止」「特定の地域における暴力団の排除」に関する認知度が高く、北九州市暴力団排除条例では、「暴力団員に対する利益供与の禁止」に関する認知度が高くなっている。一方で、「条例の名前しか知らない」との回答が、県条例では23.6%、市条例でも32.9%あり、なかでも市条例では、若い人ほど内容まで認知していない傾向となった。

【暴力団排除についての関心度と暴排意識】

- 暴力団排除についての日頃の関心度は69.2%と、前回調査の67.4%と同様の結果であった。暴力団の存在そのものに対する否定的な見方は92.5%、会社や個人で暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用してめごとの処理を行うことに対しての否定的な見方が91.7%と、前回と同様に暴排意識が高い結果となった。
- 暴力団に関する情報を普段どういったメディアから入手しているかで、インターネット（スマートフォンなど含む）からが42.4%と前回の27.0%から大幅に増えている。

【暴力団排除施策に対する認知度】

- 市の安全・安心相談センターや県警察の暴力追放ダイヤル等の認知度は21.8%（前回調査25.8%）であった。

【暴力団排除施策に対するニーズ】

- 暴力団員等から不当要求などを受けた場合に、勇気をもって排除できる環境として、今以上に必要なものとしては、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」（直接的な保護対策の支援）が、63.9%と前回調査と同様に高くなっており、次いで「相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい」21.1%となった。
- 暴力団排除に向けた行政の施策として、今後特に必要と考えるものは、「暴力団を非合法化するための法整備」が41.4%と前回同様の1位、「暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の構成のための取り組み」が33.1%と、前回同様の2位となった。
- 今後、市民がより暴力団排除意識を高揚させるために必要なPR手法としては、「テレビ・ラジオ等マスメディアによる暴追を内容とする広報」が57.1%と高く、「住民の目に触れやすい場所へのポスター・懸垂幕の掲示」（15.8%）や「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」（14.3%）「暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布」（7.5%）と

いったニーズが前回調査同様に一定数あった

- 県警察や市主催による暴追大会や暴追パレードへの参加意向としては、「参加したくない層」が72.2%と前回調査と同様の結果となった。参加したくない理由として、「できるだけ暴力団には関わりたいくない」、「参加したことによる暴力団からの報復等がこわい」といった不安を感じる回答が各29.2%で、いずれか又は両方を回答した者は全体の55.2%と多い結果となった。一方で、「住民ではなく警察や市役所の仕事と思う」が前回調査の10.5%から5.2%へ減少し、前々回(24.5%)から減少傾向が続いており、住民自身による暴力追放意識が高まっていると考えられる。

【青少年を暴力団から守るための取り組みについての意識】

- 青少年の非行問題として、暴走族への加入、大麻や危険ドラッグ等薬物乱用、出会い系サイトによる少女売春などが、いずれも暴力団加入の予備軍になっていたり、暴力団の資金源になっていたりする実態があることについての認知度は79.7%と前回調査の84.1%と同様に高かった。また現在、県内の中学・高校で実施中の県警察による生徒への暴排教育については、93.2%と前回調査の97.7%同様に回答者の多くが肯定的な見方である。

【まとめ】

- 暴力団排除条例について、県条例、市条例ともに6割程度が認知しているが、安全・安心相談センターや県警察の暴力追放ダイヤル等、相談窓口の認知度が上がっていない。認知度向上のため、広範囲へのビラやチラシ等の配布や、マスメディア等を活用したPRを行う。とりわけ、市民の情報入手の手段で割合が増えているインターネットの活用などより一層の啓発に努めていく必要がある。
- 「最近5年間の実生活」の中で、暴力団に対する脅威を感じたことが「ない」の回答割合が、前回調査同様88.7%(前回91.7%)であった。一方でメディアの報道から脅威を感じているものは82.7%(前回75.8%)であり、実際の脅威との乖離がおおきい。体感治安の改善に一層力を入れる必要がある。
- 回答者全体の暴力団排除意識は非常に高い結果となった。一方で、暴追大会や暴追パレードなどへの直接の参加意向は、前回調査同様27.8%にとどまっており、意識の高揚のための取り組みが必要である。
- 暴力団排除に向けた行政の施策に関しては、前回同様に「国の法整備」や「暴力団加入阻止のための青少年育成や犯罪者の更生」、「より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した安全対策の強化」へのニーズが高くなっている。また、今回調査では「暴力団事務所などに関する情報公開」が、前回調査より増加した結果となった。

【市政モニターに関すること】
広報室広聴課(TEL:582-2527)

【アンケートに関すること】
市民文化スポーツ局安全・安心相談センター(TEL:582-2427)